■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

バウマン会長が急逝

国際ハンドボール連盟（IHF）会長、ハンス・バウマン氏（スイス）は2月7日バーゼルで、心臓マヒのため急死された。65歳。

バウマン会長は、一九五〇年（昭25）からIHF会長をつとめ、第二次大戦前のIAHF（国際アマチュアハンドボール連盟）から、新体制となったIHFの発展に多大な功績があった。親日家として日本協会の関係者にも多くの知己があり、昭和31年秋に西ドイツナショナルチーム（11人制）とともに来日されている。楽しみにされていたミュンヘンオリンピックを目前にした同氏の急逝を惜しむ声は大きい。

※

バウマン会長の急逝は国際ハンドボール界の今後の動向に微妙な影響を及ぼすことになりそうだ。

IHF総会は来年8月（ミュンヘン）まで開かれる予定はなく、それまではP・ヘグベルク首席副会長（スウェーデン）が代行となろうが、先に前首席副会長・シャルル・プチ・モンゴベール氏（フランス）の勇退があり、いままたバウマン氏を欠いてIHFの首脳が来年度にはガラリと変わることが予想される。

当然、IHFそのものの針路も今とは異った方向がとられるだろう。

すでに実力的に世界の最上位を占めている東側諸国がIHF運営面でもその勢力を大きく張り出してくるのではなかろうか。

一九七四年の男子世界選手権が東ドイツで開かれることに決まった時からこのことはささやかれており、バウマン氏の他界はいっそうその時期を早めたといえるだろう。

今後のIHFの運営がどうなるかは急激にどうこうということはないにしても、序々ではあっても大きく変ることは確かであろう。

ハンドボール界が世界でも転機を迎えているだけに、我々も重大な関心を示さざるを得ない。

我々は極東にいるため、運営面には、遠く離れているため直接タッチすることが難しいだけは、この急逝には大きな困惑を感じる。（X）

ミュンヘンへの道

訪欧の途次ミュンヘンに立ち寄った。

ミュンヘン市の中央部から車でおよそ15分。粉雪の舞う広大な土地に競技場の建設工事は着々と進み、ハンドボールの主会場となる大室内体育館も基礎部分が出来あがって、晴れの日へ向かっている。

現場のつち音とともに高鳴りが伝わってくるのはヨーロッパ諸国のたくましい強化ぶりだ。

特に、昨春の世界選手権（パリ）で無念にも自動的出場権を得られなかった国の熱意は驚くべきものがある。オランダ、スペイン、フランスなどは多くの交流試合で腕をみがきナショナルチームの選手入れ替えもヒンパンだ。番狂せの落選といわれたソビエトも巻き返しには自信満々ですでに来春の予選を通りこして照準をはっきりメダルにあてての強化につとめていると伝えられる。

日本が絶対の自信をもつノルウェーにしても各国にマークされるだけの新戦力をたくわえて来ているようだし、アイスランドもサッカーにつぐ人気スポーツにのしあがって、その声援に応えるためにも一旗あげたいところだ。

どの国も36年ぶりに迎える「オリンピック」という華やかな舞台をしっかりと踏まえて躍進を狙っているのである。

本場ヨーロッパのハンドボール事情を実際に見聞すればするほど、日本のハンドボール界が極東に在る不運を嘆かずにはいられない。

しかし、このハンデをのりこえなければ斯界に夜明けは来ない。日本協会がまったく追いつめられたような予算編成を強いられながら、4月にグンメルスバッハ（西ドイツ）を呼び、9月にスウェーデンナショナルを招くことにしたのは、近来の快事であり、首脳陣の決意をはっきり示したものといえよう。

多くの関係者は「今シーズンにかける」といっているが、願わくばこの気持ちが底辺にも広がることを期待したい。

幸いにしてここ一、二年で球界の〝挙国体制〟はかなり整い大事への邁進に不安はないようである。直接プレーに関係はなくとも、小さな波風は微妙にナショナルプレイヤーの志気に影響してくる。すべて慎重に行動することがこれからあと不可欠だ。ミュンヘンの道のりはすでに秒読みの段階に入ったとさえいってよいのである。（杉山）

「ハンドボール」4月号（第85号）目次

【表紙写真】第11回全日本実業団選手権男子決勝ワクナガ―大同戦（3月7日・横浜）

会長・副会長・理事長留任

―評議員会・理事会―

新スタッフ決定

昭和46・47年度の新役員などを決める評議員会・理事会は、3月6日・7日に開催された。

理事会は、地方選出理事のほとんど全員が出席して行なわれたが評議員会は年度末が近かったことも手伝ってか、きわめて集りが悪く、重要時期にかかっている協会の最高決定機関としてはいささかさびしかった。

予算案、人事問題、事業日程(国内・国外)、強化対策などが討議され、下半期に各部が行った行事・事業が報告された。

体協機構が一部変更されるので体協派遣役員はその選出は会長に一任されることになった。

36年ぶりに迎えるオリンピックこれに出場するためのアジア予選斯界の最重要時期をになう新スタッフが3月6・7日に行なわれた評議員会・理事会で決定した。

ほとんどの部門が留任をし、大きな変化はない。副会長に新しく実連会長となられた林達夫氏（大同製鋼副社長）が就任されたのをはじめ、若干の地区選出理事、会長推薦理事の顔ぶれが多少かわった。

会長　田村正衛

副会長　西　敏夫

林　達夫

保坂周助

渡辺和美

理事　石切山稔治(北海道)、佐藤敦（東北）、入江暢一（関東）、角勉（北信越）、栗脇嶷（東海）、森田正英（近畿）、丸口哲美（中国）、越智武(四国)、藤田八郎(九州)、平仲孝栄(沖縄)、田中秀夫・久保義雄（以上学連）、嶋田新太郎・清水正（以上高体連）、山田計・片瀬喜代次（以上教職員連）、田中滋章・岡部正文（以上実連）、富永劭・長坂保於(以上自衛隊連)荒川清美・安藤純光・岡村昭二・勝繁夫・佐野和夫・杉山茂・久田暁・藤本強・宮崎慎六・村田弘・森岡毅雄・渡辺一己・渡辺慶寿(以上十三名、会長推薦)、河内鋭雄（会長推薦海外駐在理事）

監事　山田稔・古賀健一郎

普及部長に渡辺慶寿氏

ついで常務理事、職務分掌について討議がされ、以下のように決定した。

常務理事　入江暢一、栗脇嶷、宮崎慎六、渡辺一己、佐野和夫、田中秀夫、田中滋章、嶋田新太郎、山田計、勝繁夫、安藤純光、渡辺慶寿、森岡毅雄、久田暁、村田弘藤本強。

このうち、各連盟からの派遣理事である田中秀夫、田中滋章、嶋田新太郎、山田計の四氏は総務を担当することになり、総務企画部長はしばらく、空席としておくことになった。勝繁夫（技術指導）、安藤純光（審判）、森岡毅雄（財務）、久田暁（国際）、村田弘（オリンピック対策）、藤本強（編集）の六人は従来通りの分掌を行なうこととし、普及部長には、渡辺慶寿氏が就任することになった。中学校の指導要領復活後の対策、年少層対策、クラブ対策等多くの問題がある普及関係に氏の新鮮な感覚が期待される。

オリンピック候補選手は6回の合宿を予定

オリンピック全日本候補選手は45年度末の3月15日～20日の自衛隊勝田、3月29日～4月6日の丸善石油下津での合宿、それに引きつづき、大阪の対グンメルスバッハ第一戦を最後に45年度の日程を終了し、46年度には以下のような合宿日程が予定されている。

第一次　5月10日～20日　四日市市本田技研鈴鹿

第二次　6月17日～27日　東京　青少年センター

第三次　8月12日～9月2日　東京　青少年センター　自衛隊

第四次　9月3日～18日　スウェーデン在日期間中調整合宿

第五次　10月8日～22日　名古屋市　大同製鋼

第六次　10月26日～11月12日　東京　青少年センター　自衛隊

以上の六回の合宿を通して、強化に努力する予定であり、この間多くのファンの激励を歓迎している。

11月のアジア予選を目ざしての強化練習が予定通り順調に進み、晴れの代表の座が獲得できるよう多くのファンの激励、応援が期待されるところである。

46年予算決る

別表の通り、46年予算が決定した。各部から提出された要求総額

は三、五一四万円であった。これは収入予定の約二倍。
これを査定によって、収支バランスをとれる形にしたもので、各所で新規事業が押えられた形になっている。
収入面では、昨年度よりやや増大した予算がたてられているが、女子世界選手権関係の五八〇万円を除くと、ほとんど先年と変っていない。
この中でオリンピック強化を重点施策として、かなりの費用をさくというのであるから、きわめて厳しい査定にならざるを得なかった。
オリンピック対策は一般会計から一六四万円とオリンピック基金から六六万円支出され、計二三〇万円。
技術指導部は一五〇万円要求に対して、五五万円の査定、これは世界女子の強化費が主体をしめている。
審判部は九五万円の要求に対して、五〇万円の査定、これは前年と変らない。
普及部は六六万円の要求に対し三八万円の査定。
編集部は三一一万円の要求に対し、二八〇万円の査定。ここは印刷費の値上りとともに7月に予定されている郵便料の値上げ（三倍近い額が予想される）もあり、購読料の値上げも考えられたが、何とかやりくりをしていくことになった。
総務企画部も五〇〇万円の要求に対し、四二〇万円の査定、これもきわめてきびしい。
事業費も一二五〇万円の要求が約六割の七三三万円の査定となった。種々の点で制約を受けることになろう。
以上のように、本年度の協会予算は節約を旨としなければ、大幅に赤字となってしまうことが想予される。
このほか、スウェーデン戦、オリンピック予選という特別会計が組まれることになっているが、これにも多くの不確定要素があり、ファンの絶大な支援なくしては、財政的にもこの重大事をのりきれないことになろう。
一つには、各チームとも必ず日本協会に登録すること、また、機関誌を個人で一人でも多くの人に購読してもらうこと。多くの試合にファンが一度でも多く集ってもらうこと、これらのことが望まれることである。
協会でも、種々の資金作りの方法を考えているが、これにしてもどのような方法をとるにしろ、ファンの人々の協力なしでは、どうすることもできない。ぜひ協力をお願いしたい。

昭和46年一般会計予算

（収入）	（千円）
加盟金	440
登録金	2,600
検定料	1;650
審査料	500
購読料	2,300
広告料	1,200
体協補助金	
競技向上費（推定）	2,010
スポーツ振興費（推定）	600
世界女子補助（予定）	4,200
世界女子個人負担	1,600
寄付金	500
雑収入	210
計	17,810
（支出）	
オリンピック対策	1,640
技術指導部	550
審判部	500
普及部	380
財務部	20
編集部	2,800
国際部	90
総務企画部	4,200
事業費	7,630
計	17,810

オリンピック対策にはオリンピック基金から66万円支出し，オリンピック対策は230万円となる。

事業費内訳	
スウェーデン戦関係費	100
オリンピック予選関係費	500
全国大会共催費	600
全日本総合選手権	50
表彰費	100
日韓高校交流	100
日韓学生交流	50
日韓社会人交流	50
日台交流	30
女子世界選手権派遣	5,800
国際審判員会議派遣	200

自衛隊連盟新加入へ

実連、高体連、学連との関係が微妙な点がある自衛隊連盟の日本協会加盟が認められた。
自衛隊連盟は全国自衛隊大会を開催し、自衛隊内にハンドボールの振興をはかることを事業目的とし、自衛隊大会には、防大、少工校が特別参加することになるとともに、実連には4チーム以内が登録することになっている。

技術指導部でスライド作製

技術指導部では、3月8日にオリンピック候補選手、日体大、教育大学生をモデルとして、74カットのスライドを作成した。
これは「基礎技術としての個人的技能の紹介」を目的として作られたもので、内容はパスとキャッチ、ドリブル、シュート、フットワーク、ゴールキーピング、個人技を中心にした対人攻防についてになっている。
完成は4月末の予定。必要性が説かれながら、なかなかできなかったスライドが、完成したことはきわめて喜ばしいことである。

会長推薦理事となった杉山茂氏（慶大出・前常務理事）は勤務上の理由で執行部入りを固く辞しており、再人選されることもありそうだ。

世界女子第二次候補決定

全日本女子候補選手は3月8日～16日までの間、静岡県立朝霧野外活動センターで第二次合宿を行なった。

この合宿には、山田計監督、宇津年一、井薫両コーチの参加の下に厳しい練習が行なわれた。

この間の12日に代表選考委員による選考会が開かれ、別表のように第二次候補14人が選抜された。

これは、今後度重なる合宿を続け、チームワークをとって、世界の上位をめざすには、早い時期にメンバーを決め、コンビネーションプレーの練習などを少数精鋭のメンバーによって行なおうとするコーチングスタッフの意見によった。

メンバーは、二年連続四冠王という大偉業をなしとげた大洋デパートから、7が名選ばれ、躍進苦しい東京重機から3名選ばれたとは注目されよう。

それとともに、学生界から、GKとして唯一人北岡が選ばれたことも新鮮。

平均年令は21才弱、年令差もほとんどなく、合宿によって、大いに力をつけ、ベスト、フォア入りをめざしてほしいものだ。

スポーツ傷害保険について

本年からスポーツ傷害保険がかけられるようになりました。競技が高度化している昨今、各チームもれなく、この保険に加入し、万一の事故に備えるようにお推めします。

10名以上の構成員と責任者があればチーム単位で加入できます。

保険料は1人当り、1年890円で最高百万円までの保障が得られます。詳細は各都道府県に設けられているスポーツ安全協会へ連絡、加入手続をとって下さい。

第4回女子世界選手権
第二次候補選手

氏名	所属
GK	
小原　名苗	大洋デパート
北岡　千賀	中京女大
FP	
垂水　秀代	大洋デパート
渡辺須和子	大洋デパート
枝尾　清女	大洋デパート
三宅美智子	大洋デパート
米　恵美子	大洋デパート
島田　夏枝	大洋デパート
滝口　治代	東京重機
牧野　涼子	東京重機
古佐原ひさ子	東京重機
寺尾由美子	大崎電気
三浦　朝子	大崎電気
三毛　直子	田村紡績

不運チェコ、ルーマニア

第4回女子世界選手権組み合せ決る

前号既報の通り、女子世界選手権の予選を日本は行なわず、本大会に直接出場することになっていたが、このほど予選の組み合せが決定し、IHFから発表になった

予選なしで本大会へ出場4ケ国

日本（アジア大陸優勝）
ハンガリー（前回優勝）
ユーゴ（前回2位）
オランダ（開催国）

予選（五カード、ホームアンドアウェイ方式）

ソ連 ― ルーマニア
ドイツ連邦共和国―スウェーデン
チェコ ― ドイツ民主主義共和国
デンマーク ― ブルガリア
ノールウェー ― ポーランド

前回の3～6位は予選で対戦しないという規定にのっとり、ルーマニア、チェコ、西ドイツ、デンマークの相手にそれぞれの相手が組み合わされている訳だが、このうち、もっとも悪いくじを引いたのはルーマニア、チェコである。この両国の本大会出場はまず絶望的になったといっても良いだろう現在の女子球界の超一流、ソ連と東ドイツに予選であてられたのは不運というほかない。前号にも触れたように、普通なら、絶対に2～6位に入っている筈のソ連、東ドイツの両国が、1965年の東ドイツは予選でハンガリーに抽せん負け、ソ連は棄権したので入っていない。この運命のいたずらがチェコ、ルーマニアに不運を呼んでしまった。このほかのカードでは西ドイツ、デンマーク、ポーランドが有力になろう。

こうしてみた場合、順当にいけば、本大会は東ドイツ、ソ連、ユーゴー、ハンガリー、日本、デンマーク、西ドイツ、ポーランド、オランダということになろう。

東ドイツ、ソ連には及ばないとしても、第3と目されるユーゴーその後に続くグループ、ハンガリー、デンマーク、西ドイツに日本は充分に対抗できようからくじ運にめぐまれれば、十分ベストフォア入りを望めよう。ルーマニア、チェコの二ケ国が予選で消えることになるのは幸運である。

予選は4月25日までに終了することになっている。なりゆきが注目される。

グンメルスバッハ来日決定

どう戦うか日本チーム

西ドイツの強豪チームＶｆＬ・グンメルスバッハの来日日程が正式に決定した。

グンメルスバッハは、４月４日に行なわれる１９７１年のヨーロッパカップ決勝を終了後、その翌日にケルンからハンブルグ経由、６日の17時05分に日航四三四便で羽田着、直ちに日航一二五便に機を乗りつぎ、大阪へ向う。大阪には、19時55分に到着予定。

その後、別表の通り、大阪、京都、名古屋、静岡、東京、横浜と六試合を行ない、４月17日午前９時に日航七一一便で羽田から帰途につくことになっている。

一行は当初、４月３日の来日の予定であったが、ヨーロッパカップの決勝に進出し、その試合が４月４日にドルトムントで行なわれるため、急に予定が変更となった。

すでに本誌にも度々紹介しているようにグンメルスバッハは、自他ともに許す当代世界第一のクラブチームである。

ナショナルチームにも、現在のドイツナショナルチームの至宝シュミット（45試合231点）を始め、フェルトホフ（44試合71点）、Ｊ・ブランド（32試合27点）のフィールドプレーヤ、現在ドイツのトップキーパー・カーター（17試合）、ポダク（9試合）のナショナルプレーヤーを有し、各国の前年の優勝チームが集って二回戦方式で行なわれているヨーロッパ杯大会でも、１９６７、７０の両年に優勝しており、本年も決勝に進出している。66年以後ドイツでは三位以下にさがったことのない強チームである。

このチームに対し、対戦する全日本及び各チームのトップチームがどのような戦いぶりを見せるか大いに期待できる。

ヨーロッパ杯決勝戦の直後の試合だけに疲労が懸念されるが、試合のカンは十分なだけに、好試合が期待されよう。

見所としては、大砲シュミットのシュート、それを生かすフェルトホフ、Ｊ・ブラント、Ｋ・ブラュト、ベールターらの動き、ポダクの後を継ぎ、現在ナショナルチームのトップキーパーとして昨年の世界選手権の際にも大活躍したカーターのゴールキーパーぶりであろう。

全日本を初めとする各チームの健斗を期待したい。

選手名のあとの（　）内は国際試合出場数とその得点

選手名

GK

1　クラウス・カーター
12　ラルフ・ハマン

FP

2　クラウス・ブランド（主将）
3　ライナー・リンゲルバッハ
4　ハンスゲルド・ベールター
5　ヨヘン・フエルトホフ
6　ヘルムート・ケラー
7　ヨヘン・ブラント
8　クラウス・ベステベ
9　ハンシ・シュミット
10　ゲルハルド・ライズテ
11　ウェ・ブラウンシュバイク
13　ブルクハルト・ミヨラー

グンメルスバッハ対戦日程

日時	会場	対戦
４月７日（水）18.00	大阪　大阪市中央体育館	対全日本
４月８日（木）18.30	京都　市立体育館	対全同志社大
４月10日（土）15.30	名古屋　愛知県体育館	対大同製鋼
４月11日（日）15.40	静岡　県立草薙体育館	対清商クラブ
４月14日（水）18.30	東京　東京都体育館	対大崎電気
４月16日（金）19.10	横浜　文化体育館	対日体大

実連会長に

林達夫氏（大同製鋼副社長）

日本実業団連盟では、任期一年の全役員の改選を３月７日に会合を開き、行なった。

会長には、林達夫氏が推薦され副会長には、渡辺和美氏（留任）とともに平出一氏が推薦された。

新役員は次の通り。

会長　林達夫（新）
副会長　渡辺和美（留）
　　　　平出一（新）
理事長　田中滋章（留）
副理事長　岡部正文（新）
（田中、岡部は日本協会派遣理事）

常務理事（財務担当）西村亮治（留）、（自衛隊担当）富永劭（留）、（総務担当）永井正美（留）、山田稔（新）

理事、（審判部長）近藤金博（新）（技術部長）松岡富夫（留）、（普及部長）泉正明（新）、田中登司治（留）（井薫（留）、竹野奉明（留）、横地宇吉（新）、池田鉄哉（新）、村中明朗（新）、

監査　太田耕治（留）、青山雄一（新）

大洋二年連続四冠王
二位は東京重機
ワクナガ薬品初優勝
大崎は男女とも3位におわる
第11回全日本実業団選手権

第11回全日本実業団選手権は、3月2日〜7日までの6日間、男子12チーム、女子8チームが参加して、横浜市の平沼記念体育館を主会場に熱戦をくりひろげた。

男子では11連勝をめざす大崎電気が緒戦の大同製鋼戦をおとし、早くも初日で11連勝の希望を断念せざるを得ない立場になった。

男子は結局無敗でリーグ段階をおわったワクナガ薬品と大同製鋼が対戦したが、僅かにチャンスを把むことに巧みであったワクナガが大同を降し、初優勝をとげた。

大崎はその後やや立ち直りを見せたものの、迫力を欠き、結局三位におわった。なおこれら三チームと三景、本田技研、宗形製作所の6チームが来年度この大会に出場が決定し、トーナメントから出る2チームと対戦することになる。

女子は大洋デパートが東京重機、大崎電気、田村紡の挑戦をしりぞけ、無敗で二年連続の四冠王の座についた。

大洋デパートは三連覇、43年以来出場した全国大会はすべて優勝という偉業もなしとげた。二位には成長著しい東京重機が入り、女子実業団に新風が吹きこまれた。

大崎、大同に破れる

▽男子A組

日進商会(神奈川) 18(8−2 10−10)12 大山商会(大阪)

本田技研(三重) 21(8−9 13−7)16 新日本製鉄(愛知)

大同製鋼(愛知) 11(4−2 7−6)8 大崎電気(埼玉)

前半は両チームとも慎重に過ぎた。動きが少なく、緊迫した雰囲気の割には内容に乏しかった。

後半に入ると大同は野田・藤中を中心としたセットオフェンスから、戸谷を主とする積極攻撃が稔った。藤中は勿論のことGK柳川の好守が眼についた。

	【大崎】	得	【大同】	得
GK	下里	0	柳川	0
GK	岩下	0	倉谷	0
FP	西村	0	戸谷	3
FP	近藤	0	野田	0
FP	籏野	0	藤中	7
FP	飯田	4	加藤	0
FP	東	2	西村	1
FP	谷口	1	松浦	0
FP	佐藤	1	伊藤	0
FP	林	0	小松	0
FP	沢田	0	栃原	0
FP	井上	0	小沢	0
	(1)	8	(0)	11

7MT（審・勝 中沢）

本田技研 13(8−5 5−7)12 日進商会

前半本田は早いつめで日進の攻撃をとめ、日進はこれに苦しみ、苦しまぎれにシュートを打ち、これを本田の速攻に結びつけられた。

後半は日進は米沢、出口でたちなおり、追撃し一時はリードしたが、50分をすぎてからの本田の速攻の前に惜敗をした。本田は良く前半のリードを生かした。

年次優勝チーム

	年次	チーム
男子	1〜10	大崎電気
	11	ワクナガ薬品
女子	1〜3	愛知紡
	4	レナウン
	5	大崎電気
	6	大洋デパート
	7〜8	田村紡
	9〜11	大洋デパート

大崎電気 18(9−6 9−6)12 新日鉄名古屋

大崎は新日鉄の喰い下がりにあい苦戦、なんとか個人技でつきはなしたが元気がない。

大同製鋼 22(11−2 11−7)9 大山商会

大同製鋼 29(14−3 15−6)9 本田技研

本田の善戦がスタート直後に見られたが、15分を過ぎると完全に大同ペースとなり、大差となった

日進商会 22(12−4 10−12)16 新日鉄名古屋

大崎電気 29(12−3 17−6)9 大山商会

大山商会 21(9−7 12−5)12 新日鉄名古屋

大同製鋼 32(15−4 17−5)9 日進商会

大崎電気 29(14−3 15−6)9 本田技研

大崎電気 19(7−7 12−10)17 日進商会

たち直ったかに見えた大崎、ここでまたもモタついた。もっぱら個人技に頼り、チームプレーがな

かったため、大苦戦する結果となった。日進に今一つの体力があったらと惜しまれる。

本田技研 10（6－6 4－3）9 大山商会

3位の座をかけた本田の斗志勝ち。大山の善戦というべきか、大山は奥山の使い方にもう一工夫ほしいところ。

大同製鋼 26（14－2 12－5）7 新日鉄名古屋

Aグループ

	同	崎	本	日	山	新	勝	敗	得	失	順
日鉄	●	●	●	●	●	×	0	5	63	108	6
大山	●	●	●	●	×	○	1	4	60	91	5
日進	●	●	●	×	○	○	2	3	78	92	4
本田	●	●	×	○	○	○	3	2	62	95	3
大崎	●	×	○	○	○	○	4	1	103	58	2
大同	×	○	○	○	○	○	5	0	120	42	1

ワクナガ辛勝

▽男子B組

宗形製作所（大阪）15（7－2 8－8）10 丸善石油（和歌山）

ワクナガ（大阪）18（6－6 12－5）11 住友化学（愛媛）

前半住化の早いつぶしと速攻にワクナガはモタついた。後半はワクナガは個人技で押しきったが、良い試合ぶりではなかった。

三景（東京）30（16－6 14－5）11 セントラル（神奈川）

ワクナガ薬品 28（10－9 18－7）16 宗形製作所

この試合もワクナガは苦しんでワクナガのディフェンスの甘さをつき、宗形は着々加点、前半を1点差でおわる。後半に入ると本来の動きになり、大差がついたが、ワクナガのスタートの悪はさ今後の問題となろう。

住友化学 19（10－5 9－3）8 セントラル自動車

三景 23（9－6 14－5）11 丸善石油下津

前半の丸善の善戦も20分まで、その後速攻を浴びせかけられ、大差となった。

宗形製作所 21（8－8 13－7）15 セントラル自動車

ワクナガ薬品 30（17－1 13－5）6 丸善石油下津

三景 18（7－4 11－8）12 住友化学菊本

三景 31（11－9 20－8）17 宗形製作所

住友化学菊本 21（10－8 11－10）18 丸善石油下津

四度のタイスコアというシーソーゲーム。結局は体力に勝る住化の勝利となったが好試合。

ワクナガ薬品 19（9－6 10－8）14 セントラル自動車

ワクナガはこの試合元気がないパス・キャッチミスを連発し、これにセントラルがつけこんだ。しかし、実力差はいかんともできなかった。

ワクナガ薬品 19（9－9 10－4）13 三景

ワクナガは前半ポストプレーにこだわりすぎたようだ。三景は内藤、高梨が良く動き、そこから、江名、喜田がミドルを良く決めた。

ワクナガは木野が完全にマークされたため、市原のミドルなどで

【ワ薬】	得		【三景】	得
今井	0	GK	西牧	0
杉野	0	GK		
市原	4	FP	竹村	0
木野	4	FP	武井	0
早川	3	FP	喜田	3
森	1	FP	尾形	0
高橋	5	FP	高梨	5
戸田	2	FP	内藤	2
松井	0	FP	上平	0
藤井	0	FP	山原	1
菅	0	FP	池崎	0
			江名	2
19	（1）	7MT	（1）	13

（審・山内 斉藤）

対戦した。前半は三景のペースであり、25分すぎてからの2点の加点でワクナガはようやくタイにもちこんだ。

後半に入ると、ワクナガは戸田の連続得点でペースを握り、広く攻撃の巾を拡げ、早いボール廻しから、三景の防御陣の乱れをつき加点した。一方三景はまとまったワクナガの防御を攻めあぐみ、シュートもカットされることが多くここからのこぼれ球を拾ってのワクナガの速攻に加点されてしまった。50分をすぎるころから完全なワクナガペースになり、三景はどうすることもできなかった。

宗形製作所 18（6－4 12－8）12 住友化学菊本

日一日とペースをあげてきた宗形がじりじりと点差をつけていくという形の試合運びに終始した。

住化は加藤に往年のシュート力はなく、加藤に球を集めたが、後半に見せた積極的なマンツウマン策も不徹底で、むしろ傷を大きく広げてしまった。

セントラル自動車 22（8－5 14－6）11 丸善石油下津

両チームとも何とか1勝したいとの気持。セントラルは良く応援に応えた。

Bグループ

	ワ	三	宗	住	セ	丸	勝	敗	得	失	順
丸善	●	●	●	●	●	×	0	5	56	111	6
セ自	●	●	●	●	×	○	1	4	70	100	5
住化	●	●	●	×	○	○	2	3	75	80	4
宗形	●	●	×	○	○	○	3	2	87	96	3
三景	●	×	○	○	○	○	4	1	115	70	2
ワ薬	×	○	○	○	○	○	5	0	114	60	1

大同またも惜敗

▽決勝戦

ワクナガ薬品 15（7－6 8－5）11 大同製鋼

【大同】	得		【ワ薬】	得
柳川	0	GK	今井	0
倉谷	0	GK	杉野	0
戸谷	3	FP	市原	2
野田	1	FP	木野	5
藤中	2	FP	早川	1
加藤	2	FP	森	0
西村	2	FP	高橋	6
伊藤	0	FP	戸田	2
小松	0	FP	松井	0
松原	1	FP	藤井	1
小沢	0	FP		
11	（0）	7MT	（1）	15

（審・嶋田 佐野）

決勝にふさわしい好試合であった。大同は藤中のミドルを主武器に、野田、戸谷のリードから、藤中にボールを集める。ワクナガはボールをすばやく振り、ディフェンスを拡げ、戸田、高橋がポストから決めるという持ち味を出しての試合。24分をすぎてからの木野の連続得点で7－6とワクナガがリードし、後半に入る。40分まで

に両チーム得点なし、この間、大同には全く惜しいチャンスがあった。ワクナガのGK今井はよくピンチをきりぬいていた。

大同は同点にするまでがせいいっぱい。40分、41分と同点にしたが、この後にも惜しいチャンスを逃がし、その間にワクナガに2点のリードを許してしまった。この後57分には、加藤が1点差にもちこんだが、その後、59分からの1分間に3点を連取され、ダメを押された。大同に三度び訪れた絶好機の野田のシュート、これをとめたワクナガのGK、これが勝負を決めたといっても差しつかえない

大同一ワクナガ戦

▽三位決定戦

大崎電気 16 (8-5, 8-6) 11 三景

【大崎】	得		【三景】	得
GK 下里	0		GK 西牧	0
岩下	0			
FP 西村	2		FP 竹村	0
近藤	1		武井	0
籏野	0		喜田	0
飯田	7		尾形	3
東	4		高梨	4
谷口	1		内藤	1
佐藤	0		上平	0
林	0		山原	2
沢田	0		池崎	0
井上	1		江名	1
計	16 (0)	7MT		11 (1)

(審・中沢 田中)

スベリ出しは大崎が快調にとった。飯田がやっと本来のシュートを見せ、勝利を握った。三景は高梨が良く動いたが、長身ぞろいの大崎のディフェンスをかわしきれなかった。

▽五位決定戦

本田技研 21 (15-7, 6-7) 14 宗形製作所

【本田】	得		【宗形】	得
GK 南	0		GK 古閑	0
松岡	0			
FP 加藤	6		FP 吉川	4
三浦	3		村上	1
星野	1		金子	3
小川	1		平瀬	4
末岡	7		黒田	0
大下	3		北田	1
岩本	0		青山	0
今西	0		辻	1
足坂	0			
加藤	0			
計	21 (1)	7MT		14 (2)

(審・由利 高橋)

宗形に元気なく、本田は大下を中心に終始自己のペースで試合を進め、五位を獲得した。

大洋一大崎戦

大洋圧倒的

▽女子準決勝リーグA組

東京重機(東京) 14 (7-3, 7-6) 9 ブラザー工業(愛知)

大洋デパート(熊本) 15 (7-0, 8-0) 0 東北宗形製作所(福島)

大洋デパート 18 (11-2, 7-1) 3 ブラザー工業

東京重機 11 (7-0, 4-3) 3 東北宗形製作所

ブラザー工業 8 (3-4, 5-3) 7 東北宗形製作所

大洋デパート 10 (5-2, 5-1) 3 東京重機

(この試合決勝リーグに適用)

【重機】	得		【大洋】	得
GK 長岡	0		GK 小原	0
			斎藤	0
FP 滝口	0		FP 垂水	1
鷲谷	0		米	0
牧野	2		渡辺	3
古佐原	1		三宅	0
村上	0		島田	1
市川	0		枝尾	3
葛西	0		小林	1
松本	0		村中	0
藤本	0		蔵田	1
長谷川	0		釼	0
計	3 (0)	7MT		10 (1)

(審・若山 田中)

準決A組

	大	重	ブ	宗	勝	敗	得	失
大洋	×	○	○	○	3	0	43	6
重機	●	×	○	○	2	1	28	22
ブ工	●	●	×	○	1	2	20	39
宗形	●	●	●	×	0	3	10	34

準決B組

	大	田	ビ	紡	勝	敗	得	失
大崎	×	○	○	○	3	0	50	25
田村	●	×	○	○	2	1	29	20
ビタ	●	●	×	○	1	2	35	28
大紡	●	●	●	×	0	3	21	62

大洋はボールを大きく左右にふり、重機のデイフェンスを開きポストプレーカットインで着実に得点を重ねた。重機はよく動き、ボールも廻したが、最後のツメがなく実らなかった。

ビクター元気なし

▽女子準決勝リーグB組

田村紡（三重） 13（7－2、6－2）4 大洋紡（岐阜）

大崎電気（埼玉） 13（4－2、9－5）7 日本ビクター（茨城）

ビクターはGKを欠き、急拠蓮見妹をゴールに入れての対戦。

一応何とかこなしてはいるもののデイフェンスも不安があるのか木幡、寺尾、三浦の3人を中心としたコンビに走られ、点差を開かれた。

大崎電気 24（14－5、10－5）10 大洋紡

田村紡 8（2－2、6－1）3 日本ビクター

田村は8分にラッキーな点を拾った。その後前半はまずまずの試合であったが、後半になるとビクターは攻撃がもたついた。

大崎電気 13（2－4、11－4）8 田村紡

（この試合決勝リーグに適用）

田村は前半快調なスタート、大崎の得点を寺尾の2点に押え、自らは、渡辺を中心に4点をあげ、2点のリードで前半をおわった。

後半に入ると大崎は35分に7MTを決めた後は完全に自己のペースで試合を進め快勝した。

得	【大崎】		【田村】	得
0	和田	GK	久保	0
			伊藤	0
2	木幡	FP	三毛	3
0	新島		若林	1
7	寺尾		沼田	0
3	三浦		渡辺	2
0	長谷川	（審・嶋田、佐野）	久保田	0
0	佐藤		辻	1
1	岩井		広森	1
			知念	0
			沖	0
			紀平	0
13	（3）	7MT	（0）	8

日本ビクター 25（13－5、12－2）7 大洋紡

大洋決勝リーグでも決定的

東京重機 14（9－5、5－4）9 大崎電気

得	【大崎】		【重機】	得
0	和田	GK	長岡	0
0	木幡	FP	滝口	1
2	新島		鷲谷	3
4	寺尾		牧野	4
2	三浦		古佐原	3
0	長谷川		村上	0
1	佐藤		市川	1
0	岩井		葛西	0
			松本	0
			藤本	0
			長谷川	2
9	（1）	7MT	（0）	14

大崎は10分には4－1と優位にあったが、それ以後は攻撃を牧野を中心とする精力的デイフェンスとカットの前に得点がとれず、その間に重機に大きく差をつけられた。後半に入り、重機は勝利を意識してか、シュートが決らず、苦しい戦となったが、前半の優位を生かして逃げきった。

大洋デパート 15（3－3、12－1）4 田村紡

得	【大洋】		【田村】	得
0	小原	GK	久保	0
0	斎藤			
2	垂水	FP	三毛	1
0	米		若林	1
6	渡辺		渡辺	1
0	三宅		久保田	0
4	島田		辻	0
3	枝尾	（審・小松、若山）	広森	1
0	小林		知念	0
0	村中		沖	0
0	蔵田		紀平	0
0	釼		沼田	0
15	（1）	7MT	（0）	4

開始3分大洋のGKからの球出しをカットして先取点をあげた田村は14分までに3点をあげた。だがこの有位も前半だけ。

後半に入るとたたみかけるような大洋の攻撃は35分までに8点を連取し、大勝を決めてしまった。

東京重機 17（10－5、7－5）10 田村紡

得	【田村】		【重機】	得
0	久保	GK	長岡	0
1	三毛	FP	滝口	0
2	若林		鷲谷	5
1	渡辺		牧野	3
1	久保田		古佐原	4
2	辻		村上	4
3	広森	（審・斎藤、斎藤）	市川	0
0	知念		葛西	0
0	沖		松本	0
0	紀平		藤本	0
0	沼田		長谷川	1
10	（1）	7MT	（1）	17

走りとパスワークに一段の冴えを見せる重機は古佐原を中心に良く得点を重ね、楽勝した。田村紡は守備でもつめが見られず、攻撃もパスがつながらず重機に速攻を許した。

大洋デパート 16（10－5、6－3）8 大崎電気

スタート直後から、大洋は快調に攻撃をし、完全に自己のペースで自信をもって試合を進めた。

得	【大洋】		【大崎】	得
0	小原	GK	和田	0
0	斎藤			
3	垂水	FP	木幡	1
0	米		新島	1
7	渡辺		寺尾	3
0	三宅		三浦	1
5	島田		長谷川	0
1	枝尾	（審・小松、若山）	佐藤	1
0	小林		岩井	1
0	村中			
0	蔵田			
0	釼			
16	（0）	7MT	（0）	8

これに対し、大崎はミドルに対するツメがなく、自由に打たせてしまい、点差は開いた。

後半も同じペースで試合が進み大洋は無敗で二年連続四冠王の修業をなしとげた。

決勝リーグ

	洋	重	崎	田	勝	敗	得	失	順
田村	●	●	●	×	0	3	22	45	4
大崎	●	●	×	○	1	2	30	38	3
重機	●	×	○	○	2	1	34	29	2
大洋	×	○	○	○	3	0	41	15	1

NHKスポーツ教室で4月11・18日の両日にハンドボール

NHKでは、スポーツ教室にハンドボールを行なうことになり、全日本男子がモデルとなり、基礎技術を中心にした番組が作製されつつある。

講師は全日本男子コーチ、竹野奉昭氏。4月11日9時～10時、16時30分～17時30分（再）4月18日9時～10時にNHK教育テレビで放映の予定。

大洋デパート〝偉業〟の周辺

◇……昨シーズンすでに史上3番目の4大タイトル独占を遂げているだけに、今シーズンはじめから、36年に愛知紡、42年に田村紡がマークした「全勝で4冠王」を目標に掲げていた。

しかし、かっての愛知紡独走時代ならともかく、現在はいわば群雄割拠、わずかなスキをつけこむ強者・巧者がひしめきあっているのだ。一つや二つの取りこぼしがあるだろう、というみかたも強かった。その心配を尻目にキレイに白星を並べた。まったく強い、巧い。

4冠王カルテ

	勝敗	総得点	総失点
愛知紡（36年）	12戦12勝	153	47
田村紡（42年）	16戦16勝	187	87
大洋デ（44年）	16戦14勝2敗	216	89
（45年）	15戦15勝	230	67

◇……岩手国体の時だ。彼女らは自分たちの試合がないとスタンドの一角に陣取って同郷選手の応援役に廻っていた。澄み切った秋空に若い女の子の声がひびけばイヤでも目立つ。「あれがナンバーワンの大洋だョ」……観客の視線が集る。彼女らは陽気に、いっそう大きな声を出した。

この情景をみていた全日本の竹野コーチは『余裕があるなァ、すごく自信をもっている』と評した。大洋デパートの強さの秘密はこの〝余裕〟に代表される。つねに持てる力を存分に発揮できるのである。

◇……大洋にも悩みはある。九州地区に手ごたえのある相手がいないことだ。

井監督は「関東や東海のチームは羨しい」といい「遠く一人だけはなれ、中央のレベルから遅れまいとする気持ちが練習にも表れたのが全勝の原因ではありませんか」とも話す。

立地条件の悪さを逆に良薬とするところなぞ、やはりこれも〝余裕〟といえなくはない。

◇……一部には大洋と他チームの差が開きすぎた。ひょっとすると3年連続4冠王も考えられるという声がある。

たしかにスタッフ不動の大洋に比べて各チームはあまりにも若い

各監督が「ウチは試合がはじまってみないと判りませんよ」というのも肯ける。

新シーズンになってこの差がどこまで縮まるか。

元大崎の主力・早川清美さんは『大洋にも死角はあるハズですがそこを突くだけの力とキャリアがどのチームにもないのではありませんか』とみている。

女子の場合、ある程度実力が接近していない限り「気力勝ち」は難しい。常識的な結論ながら、技術面の課題克服以外に〝打倒・大洋〟の道はない。

6年ぶりに行われるオランダの世界選手権を前にしていちだんと盛りあがりをみせる女子界にあって大洋デパートをめぐる〝女の争い〟はいっそう白熱の度をましそうである。

大洋デパートのこれまでに獲得したタイトル

①昭37 第17回国体、②昭38 第15回全日本総合 ③昭38 第18回国体 ④昭40 第17回全日本総合 ⑤同 第6回全日本実業団 ⑥昭43 第20回全日本総合 ⑦同 第23回国体 ⑧同 第9回全日本実業団 ⑨昭44 第21回全日本総合 ⑩同 第24回国体 ⑪同 第16回全日本選抜 ⑫同 第10回全日本実業団 ⑬昭45 第22回全日本総合 ⑭同 第25回国体 ⑮同 第17回全日本選抜 ⑯同 第11回全日本実業団

大洋デパート・11連続全国大会優勝のあと

▽ 第20回全日本総合（昭 43.8・長崎市）
- ○24—6　ブラザー工業
- ○9—7　日体大
- ○15—8　田村紡
- ○12—10　三菱鉛筆

▽ 第23回国体（昭 43.10・高浜町）
- ○19—6　大阪スターズ
- ○9—7　大崎電気
- ○12—7　田村紡

▽ 第9回全日本実業団（昭 44.2・横浜市）
- ○22—2　ブラザー工業
- ○10—6　大崎電気
- ○17—3　東北宗形製作所
- ○6—4　三菱鉛筆
- ○11—9　田村紡

（昭和44年度4冠王）

▽ 第21回全日本総合（昭 44.8・盛岡市）
- ○15—5　日体大
- ○19—2　宮城二女高
- ○13—7　東京重機工業
- ○9—4　三菱鉛筆
- ○13—3　大崎電気

▽ 第24回国体（昭 44.10・長崎市）
- ○23—7　ブラザー工業
- ○12—5　大崎電気
- ○11—4　田村紡

▽ 第16回全日本選抜（昭 44.12・東京）
- ●6—11　大崎電気
- ○8—3　三菱鉛筆
- ○12—7　田村紡

※得失点差で優勝決定

▽ 第10回全日本実業団（昭 45.2・名古屋）
- ○28—3　大洋紡
- ○14—7　大崎電気
- ○13—6　ブラザー工業
- ○12—6　東京重機工業
- ●8—9　田村紡

※得失点差で優勝決定

（昭和45年度4冠王）

▽ 第22回全日本総合（昭 45.8・和歌山）
- ○21—6　東北宗形製作所
- ○13—5　東京重機工業
- ○16—1　美和ク
- ○11—4　大崎電気

▽ 第25回国体（昭 45.10・盛岡市）
- ○29—4　大阪スターズ
- ○15—5　東京重機工業
- ○16—6　大崎電気

▽ 第17回全日本選抜（昭 45.12・東京）
- ○16—5　全日本学生
- ○13—9　大崎電気
- ○6—4　日本ビクター

▽ 第11回全日本実業団（昭 46.3・横浜）
- ○15—0　東北宗形製作所
- ○18—3　ブラザー工業
- ○10—3　東京重機
- ○15—4　田村紡
- ○16—8　大崎電気

43試合41勝2敗

（注）昭43.12の第15回全日本選抜は欠場

白花醸造後半戦は無敗

──第1回女子日韓親善試合──

結局2勝2敗1分にて終る

白花醸造チームは2勝1分2敗の戦績を残して、予定をややのばして、2月24日に離日した。

韓国初の女子チームとして来日し、基本技に忠実であり、勝負への執念をみなぎらせている点など多くの土産物を日本球界に残して帰国した。

─白花醸造チームの戦績─

2月15日東京体育館
大崎電気11（6—3 5—5）8白花醸造

2月16日水海道二高体育館
日本ビクター17（5—3 12—6）9白花醸造

2月18日四日市市体育館
白花醸造8（6—4 2—4）8田村紡績

2月19日愛知県体育館
白花醸造10（5—5 5—3）8ブラザー工業

2月22日住友化学体育館
白花醸造11（5—3 6—4）7新居浜選抜

田村後半追いこむ

日韓女子社会人交流の第三戦は2月18日午後6時30分から四日市体育館で開催された。

田村紡績 8（4—6 4—2）8 白花醸造

前半は田村の動きがきわめて悪く、先取点を辻が5分にあげたものの、7分鄭、8分兪、13分権、15分再び鄭と4点を連取された。

この間、田村はパスミスなども

得	【田村】		【白花】	得
0	久保	GK	李太姙	0
0	伊藤	GK	李英淑	0
0	三毛	FP	黄月暎	0
0	若林	FP	李鉉順	1
0	金田	FP	李徳子	0
1	渡辺	FP	兪慶淑	1
0	久保田	FP	鄭順福	4
3	辻	FP	金智現	0
4	広森	FP	権美子	1
0	知念	FP	崔承美	0
0	沖	FP	高善龍	1
0	紀平	FP	朴光子	0
8	（3）	7MT	（0）	8

（審・金沢 都梅）

あり、いいところがなく、これを白花は確実に点にしていき、田村の反撃を17分辻、21分広森、24分辻の3点に押え、逆に19分李鉉順23分鄭と2点を加えて、6—4と2点のリードをして、前半をおわった。大崎、ビクターとの試合で日本のペースによろやくなれ、ややできの悪い田村紡のミスにも助けられ、白花は来日以来始めて、自己のペースで前半をおわることができた。

後半に入っても、田村紡はペースがもどらず、白花のペースであった。田村紡はチャンスはあるが得点があがらない。

その間に、白花は34分鄭、40分高が加点し、8—4と絶対の優位にたった。

田村は、速攻に活路を見出したが、勝利への執念をもやす白花は何とかこれを喰いとめようとし、7MTを41分、43分、46分に田村紡に与えてしまった。田村紡はこの7MTにすべて広森を起用し、広森は期待に応えて、これをことごとくきめた。更に44分には田村紡は渡辺が加点しておいつき、8—8のタイになった。

残る4分両軍とも決め手なく、引き分けにおわった。この間、判定をめぐって、緊迫した場面も生れた。

国際親善試合という特殊な雰囲気の中の試合、選手・ベンチ・レフェリーとも異常な空気の中に入ってしまうのであろうが、レフェリーは冷静で公平な判断を、選手・ベンチはレフェリーの判定を冷静に受け入れる余裕の欲しいものである。今後益々多くなるであろう国際親善試合が判定をめぐるトラブルで摩擦をおこすことがあるならば、親善でなく、汚点を残すことになってしまおう。

白花後半逆転勝ち

第4戦は2月19日に愛知県体育館でブラザー工業との間に行なわれた。

白花醸造 10（5—5 5—3）8 ブラザー工業

得	【ブ工】		【白花】	得
0	佐藤	GK	李太姙	0
		GK	李英淑	0
0	小島	FP	黄月英	0
2	藤浪	FP	李鉉順	1
3	金村	FP	李徳子	0
3	藤田	FP	兪慶淑	2
0	長塚	FP	鄭順福	0
0	山田	FP	金智現	0
0	黒瀬	FP	権美子	1
0	横田	FP	崔承美	0
0	田之上	FP	高善龍	0
		FP	朴光子	5
		FP	安康淑	1
8	（0）	7MT	（0）	10

（審・奥村 赤松）

先日惜しくも引き分け、待望の1勝を眼の前にしながら引き分け

てしまった白花。その執念が後半に爆発したというべき試合であった。

先手は1分藤浪がとったが、白花も2分兪がとり返す。その後とりつとられつ前日五度び同点というシーソーゲーム。

ブラザーも藤浪、金村、藤田が良く決めれば、白花も李鉉順、兪慶淑、朴光子がこれによく対抗した。

後半に入ると、白花は権が27分にとるとブラザーは27分過ぎに金村がとり返す。30分には、また7—7と七度び同点。その後33分に藤田がリードを奪った。その後、ブラザーは得点がとれない。

この間、白花は39分に安が同点とし、その後、朴が43分、48分に連続得点し、待望の1勝を握った。

白花快勝、最終戦を飾る

第5戦（最終戦）は2月22日17時住友化学体育館で新居浜選抜との間で行なわれた。新居浜市では市長をはじめとして市民をあげての歓迎をした。

白花醸造 11（5—3 / 6—4）7 新居浜選抜

新居浜選抜は高校界の一方の雄新居浜市商の現役メンバーを主体に、OGを加えて作られたチーム練習不足が心配された。

白花は旅の疲れか、立ちあがり悪く、コンビがとれず、思うような攻撃ができず、苦戦した。

先手は7分に加藤井が7MTでとった。白花は10分を過ぎてから朴、兪、権とたてつづけに3点を連取した。

この間、白花は持前のスピードが徐々に出て、セットよりのパスワークを生かした。

以後、兪のワンモーション・シュートで17分、22分に得点を重ねた。

一方、新居浜は加藤が15分に、前半終了間際に曽我部が得点し、5—3で終了した。

後半に入り、新居浜は26分に山本が得点し、5—4と一点差に追いあげたが、白花はすぐ兪の7MTでつきはなした。

その後、白花は兪、朴のスタンディングシュートと速攻で着々加点した。

得	【白花】		【新居浜】		得
0	李太姫	GK	岩崎	（新居浜商）	0
0	黄月暎	GK	西条	（フクヤ）	0
0	李鉉順	FP	森実	（新居浜商）	0
0	李徳子	FP	飯尾	（〃）	0
6	兪慶淑	FP	曽我部	（〃）	2
0	鄭順福	FP	出雲	（〃）	0
0	金智現	FP	加藤井	（四国電業）	4
2	権美子	FP	山本	（〃）	1
0	崔承美	FP	加藤浪	（住友病院）	0
0	高善龍	FP	田中	（別子大丸）	0
2	朴光子	FP	林	（新居浜商）	0
1	安康淑	FP	礎部	（〃）	0
11（1）		7MT		（3）	7

（審・河本、越智）

新居浜選抜は加藤井を活かしきることができず、11—7で敗れさった。

白花の当りの良さ、足腰の良さとシュートの正確さ、強さの勝利ということができよう。

新居浜選抜は練習不足にもかかわらず、最後までよく戦ったことは賞讃されよう。

☆　☆　☆

日韓親善の女子第一回の対戦は結局2勝1分2敗という成績でおわった。

いろいろと双方の喰い違い、また韓国の白花醸造側の遠征馴れしていない点からくる種々の不平・不満、それと強烈なまでの勝負への執念、これらのことが重なって当事者はかなり苦労したと伝えられている。

こちらが遠征した場合にも、よくあることであろうが、国情、気候・風土の遠いからくる行き違いがあろう。

郷に入れば、郷に従わざるを得まい。今後多くなる国際試合を受け入れることになろう我国では、できる限りのムリをしない受け入れをしていくことが必要であろう。何もムリをして、相手側に合わしていく必要はない、ムリをせずありのままで受け入れるのが本当の国際親善ではないだろうか。

日本チームと対戦して

金　栄　佑
（白花醸造コーチ）

白花女子ハンドボールチームは韓国女子球界で国外への初遠征を今回行ないました。

すでに多くの年月の積み重ねの上にある日本の女子実業団と試合をして見ますと、白花には足らない点が多々あります。

まず、国際ゲームの不足、日本チームに対する知識の欠除、旅行による疲労、食事の違い、審判上の見解の相違、競技場などにわたって未知のことが多すぎたのです。次に今回対戦した日本チームを試合別に簡単に印象を申しますと次のようになりましょう。

第一戦（大崎電気）

私達が初めて対戦した日本チームで、ブロックプレーが巧みだった。

第二戦（日本ビクター）

最後までペースをかえずに積極的に闘ったのに感歎した。

第三戦（田村紡）

他のチームと比べると個人技が劣り、チーム力を完全には出しきっていないようでした。

第四戦（ブラザー工業）

チームワークが良く、これからもっとも強くなるチームと見ました。

第五戦（新居浜選抜）

選抜チームなので、コンビが整わないことと練習不足だったのではないでしょうか。

競技面で気のついた点を列挙しましょう。

一、基礎技術の点ではフェイント動作が違う。
二、競技の運営・方法が統一されていた。
三、ブロック・プレーをやる。
四、試合初めより終る時まで速攻をかける（三人速攻）。
五、ポストやサイドからエリア内へのダイビングシュートを行なう
六、フリースローラインからのフリースローの時は、フリースローを重要視している。
七、守備は1：5守備を敷いている。
八、ロングシュートはジャンプシュートのみである。
九、ディフェンスを荒くする。
十、基礎体力がすぐれている。

審判上の相違でめだった点を列挙しましょう。

一、オーバーステップに対する判定。
二、シュートの時のボールに対する判定が無頓着である。
三、故意に日本に有利な笛を吹く場面もあるようだ。

今回の遠征を顧みて、結論的に申しますと、

日本遠征で五回の日本チームとの対戦を通じて、日本チームと白花チームとの親善になっただけでなく、白花チームにとっては技術戦術の習得に大変役だったものと考えています。

しかし、たとえ親善競技といっても、女子にとっては、無理なスケジュールであったことは、今後の親善競技の施行にあたっては、考慮しなければならない問題だと考えます。

日本での、特に水海道、新居浜でのへだてのない声援には心から感激しました。

日本のハンドボールチームと実業団連盟の更なる発展を祈ります。

日本遠征の印象

金　智　現
（白花醸造主将）

疲労を常に意識しながらの10日間でしたが、最終試合を快勝でおわることができ、今回の遠征を企画して下さった日本協会に敬意を表します。

創部以来、一年五ケ月で韓国女子球界初の国外遠征に来日しました。大きな期待と抱負をもっていました。想像以上の日本側の親切と好意に感謝します。

最初の試合は両チームとも相手の力が判らず、緊張した結果、平素の実力が発揮できずにおわってしまいました。しかし、ヒントは把めました。ブロックを主体にした大崎の攻撃の勝利といえましょう。

日本ビクターとの試合は国際試合が初めてという土地、人々の期待が大きいだけに、私達はどうしても勝たねばならないと思い緊張しました。会社社長さん以下の暖い歓迎を受け、多くの観衆を前にして、一層勝たねばならない気持で試合に臨みました。後半15分までは互格の試合でしたが、身長差と体力をもとにした闘志の前に残り10分間に連続得点をとられ、2敗してしまいました。

食事の点で不便をしていた私達は東京でスキヤキを食べ、最高に速い汽車で名古屋に向いました。

第三戦は審判の未熟な判断によって、後半は完全なスランプにおちいってしまった。

ファウルとプッシング、オーバーステップの判定があいまいだったり、7MTをとられるべきファウルを私達はしていないのに7MTにした審判はやはり未熟といわなければならない。露骨に田村紡に偏見をもっていると思われる判定に日韓両国の審判の差を感じた。

第4戦のブラザー工業戦を前にして、必勝の闘志を疲労の中にかきたてた。この試合も勝ったものの快勝というにはほど遠い試合であった。

新居浜の途中の奈良での観光は忘れられない印象を残しています

愛媛協会の皆さんをはじめとする暖かい歓迎を受け、最後の試合の必勝を期して、ミーティングを行ない、この遠征中もっとも安らかに眠ることができ、最終戦の新居浜に向った。

この試合は期待通りの快勝であった。5戦2勝1分2敗の成績を残して、すっきりした、そして少し淋しい気持で新居浜を後にしました。生涯の良き思い出になりましょう。選手を代表してハンドボール協会役員・選手の方々に感謝します。

本項は田中実連理事長の努力の賜です。田中氏は原稿依頼から、その飜訳まで、貴重な時間をさいて、努力していただき、やっと、金コーチ（氏は大韓協会副審判長、韓国ナショナルチームコーチを兼務）、金主将の訪日印象記が本誌に掲載できることになったのです。編集部より、田中理事長に感謝します。（編集部）

日韓交流、本年は益々盛んとなりましょう。すぐ隣りの韓国といままであまりにも交流がなかったのがおかしいといえばおかしいのです。我が国としては、国際試合と形式ばらずに気軽に受け入れる（たとえば経費も全部向うもちというような）ことが必要になりましょう。

★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

──杉山　茂──

グンメルスバッハ、ステアウアブカレストで決勝

～男子ヨーロッパ杯～

大詰に入った男子のヨーロッパ・カップは、3月上旬に準決勝2カードが各地で行われ、来日の決まっている前回の覇者・グンメルスバッハ（西ドイツ）と名門・ステアウア・ブカレスト（ルーマニア）が決勝へ進出した。

グンメルスバッハはリスボン・スポーツクラブ（ポルトガル）を順当に限した。リスボンは相手のあいつぐ棄権（というよりも対戦拒否）でここまで勝ち残っていたものだが、実力以上の健斗を示したといえる。

これに対してステアウア・ブカレストは好調のパルティザン・ブジエロバール（ユーゴ）に第1戦で4点差をつけられて敗れ逆転は難しいとみられたのだが、ホームゲームでは鮮やかな攻防から前半で劣勢をばん回、その後も慎重に試合を進めて結局3点のアヘッドを奪い辛勝した。決勝（1試合）は4月2日ドルトムントで行われる予定。

▽準決勝

グンメルスバッハ（西独）　25（11－11、14－6）17　リスボンSC（ポルトガル）

グンメルスバッハ　27（13－6、14－5）11　リスボンSC

グンメルスバッハの2勝

パルチザン・ブジエロバル（ユーゴ）　19（11－9、8－5）14　ステアウア・ブカレスト（ルーマニア）

ステアウア・ブカレスト　17（10－5、7－4）9　パルチザン・ブジエロバル

1勝1敗。得点合計31－28で、ステアウアの勝ち

女子も大詰め　ブダペスト好調

女子のヨーロッパカップは準決勝段階に入り、FTCC・ブダペスト（ハンガリー）対HG・コペンハーゲン（デンマーク）の第1戦は14－7でブダペストが勝った。

フランススペインに連敗

ミュンヘン・オリンピックのヨーロッパ予選は来年3月、マドリッド（スペイン）に16ケ国が参集して五つの座をめぐる攻防を展開する。衆目のみるところ世界選手権の9位のソビエトの優位は動かせず関係者もファンも「四つの代表権争いだ」という。各国の強化もいよいよ目の色が変って来た。

2月26日と28日フランスで行われたフランス－スペイン戦はその意味で注目されたが、

スペイン　13（6－7、7－4）11　フランス

スペイン　16（8－7、8－7）14　フランス

とスペインの連勝に終った。

スペインはこの勝に多いに気をよくし、〝マルカ〟紙のハンドボール記者は「守備面についてはもはや申し分ない。スペインはオリンピックへ向かって強化の新しい段階に入った」と報じた。

東ドイツリーグ終わる

先号でその一部をお伝えした東ドイツの国内リーグは、結局男子ではディナモ・ベルリンが18戦12勝2敗4分で2シーズンぶり3度目の優勝を決め、マグデバーグ・SCの2連勝を阻んだ。女子では最後までSC・ライプチヒとエムポール・ロストークがせりあいをつづけ2月末現在ライプチヒが15勝1敗、ロストークが14勝2敗の成績。ライプチヒは今シーズン勝てば4連勝、ロストークとしては一九六七年以来のチャンスである。

なお、男子の得点王はH・フラッツ（SC・マグデバーグ）132点だった。

チュニジア球界が成長

フランスの関係者によって数年前タネが蒔かれたチュニジアのハンドボール界はその後順調に成長し、今では同国でフットボール（サッカー）につぐ人気スポーツへのしあがった。ビッグゲームには五千～七千の観衆が詰めかけ、競技人口でもフットボールについて二番目だという。

ルクセンブルグも活発

ルクセンブルグの国際交流が目立っている。相手にあまり強いところはないようだがしだいに力をつけて来ている。

ルクセンブルグ　32－22　イタリア

ルクセンブルグ　26－23　ベルギー

ルクセンブルグ　20－15　アメリカ

ルクセンブルグ　21－19　オランダB

フランスB　27－21　ルクセンブルグ

健斗するノルウェー

ヨーロッパの関係者の間でその急速なレベルアップが評判となっているノルウェーは3月初め世界チャンピオンのルーマニアを招いて2試合を行い、グルイアらベストメンバーを揃えたルーマニアと互角に戦い注目をあびた。

ルーマニア　12（4－4、8－4）8　ノルウェー

ルーマニア　10（6－5、4－4）9　ノルウェー

なお、ルーマニアはこのあとスウェーデンと対戦、16－9で勝った。

・本・誌・恒・例・

昭和45年度 重大ニュース

①オリンピック対策部が発足（4月）

球界宿願のミュンヘン・オリンピック（47年8月）を前に、頂点強化を急ぐ日本協会では、いっそうの成果をあげるため、執行部内に史上初のオリンピック対策部を設置した。従来あった選手強化対策委をオリンピック一本に焦ったもので、強化はもとより、ムードづくりの上でも大きな効果が期待されている。

初代部長には村田弘氏が推せんされ、同氏は12月、正式にオリンピック予選出場チームの監督となった。

また同部によって5月にオリンピック第1次候補選手が、12月に同第2次候補が発表された。

強化合宿は9月、12月、46年3月の3回行われ、いよいよ決戦の年〝46年〟へ突入しようとしている。

②大洋デパート、2年連続4冠王の偉業成る

昨年4大タイトル独占という偉業をとげた大洋デパート（熊本）はいっそうチーム力を充実させ、ついに2年連続4冠王という快挙を成就した。

しかも43年8月の全日本総合以来11連続全国大会優勝という快記録をつづけている。

③IHF総会で、ミュンヘンオリンピックなどを討議（9月）

9月マドリッドで開かれたIHF総会には渡辺和美副会長、河内鋭雄在外理事が出席し、大陸別の予選システムをとることとなり、アジア地区として、韓国、イスラエルと代表の座を争うことになった。アジア地区の試合方式は協議中。

④全国中学校指導者講習会開く（8月）

昭和47年度からの「中学校指導要領」への採用を前に、ハンドボール競技の正しい理解を深めるため全国から指導者を集めて行われた。

指導要領の解説、指導（授業）の進めかたなど2日間にわたる講習会は初の試みとしては大きな成果をあげた。

⑤初の外国学生（単独）チーム・成均館大（韓国）来日（7月）

第4回日韓学生交流として韓国ナンバー・ワン成均館大を招いて全5戦を行った。外国学生チームの単独来日は初めてで熱戦がつづいたが、日本側は日体大、関東学生が勝ったものの通算2勝3敗と負けてしまった。

⑥男女の日韓社会人交流実現（11月・46年2月）

これまでの高校、大学につづいて社会人の日韓交流が実現、男子は11月に愛媛クが遠征、5戦2勝3敗だった。2月には初の女子チームとして白花醸造が来日、対戦成績は2勝2敗1分であった。これで日韓交流は大学女、高校女を除く4部門で実施されることになった。

⑦日体大男女、学生界の全タイトル握る

学園紛争の余波をうけて大なり小なり変動のみられる学生界にあって今年も日体大の攻守は抜群だった。

関東学生春秋（5、10月）、全日本学生（11月）と3大大会の男女タイトルを独占、特に男子は全日本選抜（12月）でも社会人勢を降して優勝した。

⑧日韓高校優勝での連敗（8月）

全日本高校優勝の新居浜工（愛媛）が遠征、2試合を行ったが麻浦に14—16、東亜に4—16と連敗した。交流ごとに韓国の進境がめだつが、高校界の劣勢はやがて全部門で日本勢の苦戦を予言するものと大きな衝撃を与えている。

⑨台湾チーム（台中県小学教師選抜軍）来日（8月）

かねてから結成の準備をすすめていた台湾協会（中華民国全国手球委員会）は6月正式に発足、9月にはIHF仮加盟国となったが初の交流として台中県教師チームが来日、三重県教員団と親善試合を行った。

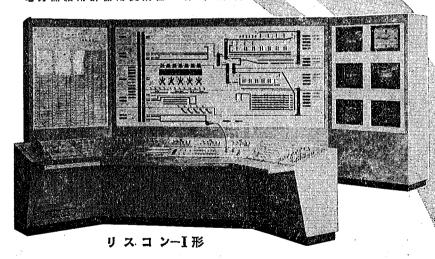
⑩全自衛隊連盟が発足（4月）

堅実な歩みをつづけている自衛隊球界の中心となるべく全自衛隊連盟（森川竹雄会長、富永劭理事長）が発足、これまでの関連から全日本実連さん下の委員会として活動、新年度からは日本協会五つ目の加盟団体となる。

【その他】▽埼玉教員ク、教員界の二冠獲得　▽国体高校で大阪代表男女優勝　▽IHFコーチシンポジューム竹野奉昭氏派遣　▽IHFバウマン会長逝去

ハンドボール研修会報告②

ハンドボール競技における持久性について

東京大学教授
広田公一

ハンドボールの持久性をテーマとして話しをいたします。

体力はいろいろの要素にわけられます。ここではその機能面だけをとりあげ機能面を筋力・持久性・スピード・柔軟性・調整能力とにわけました。この理由は、機能のそれぞれについて、それにかかわる生理的要因が違うからです。たとえば、筋力にかかわる生理的要因は、筋肉の量であって、筋力を強めるためには筋肉の量をふやすことが絶対条件となるわけです。ところでここにテーマとしてとりあげた持久性についての生理的要因は、筋肉えの酸素供給能力であります。筋肉にたくさんの酸素が供給されればそれだけエネルギーの発生（動員）が大きくなります。また酸素の供給によって、筋肉の中に生産され蓄積された乳酸のような老廃物が処理され、二酸化炭素と水とに分解されて人のからだに全く無害なものにかわります。したがって酸素の供給は疲労の回復に大変に役立つものであります。持久性というものの本質が疲労との闘いであることを考えますと、筋肉に多量の酸素が供給されて、乳酸のような疲労素がどしどしと処理され、同時にエネルギーの発生が大きいことが、強い運動の持久性に大変に好ましい効果であります。つまり、持久性筋力が高いということになるわけです。ただし持久性は一群の筋肉の持久性と、全身の筋肉の持久性とにわけなければなりません。ハンドボールでコートを走りまわるのに関係する筋肉は全身の殆んどの筋肉であり、これら全部に多量の酸素を与えるとなれば、たくさんの血液が必要であり、心臓を中心とした呼吸循環機能の良否が問題になります。参考までに筋力と持久性以外の体力についてその生理的要因をあげますと、スピードについての生理的要因は①興奮（神経衝撃）が神経の中を伝わって筋肉に達する時間、つまり反応時間のはやさと②筋肉自体の興奮しやすさ（クロナキン）と収縮のはやさ、③そして走るという動作が循環するような運動では、動作の交代のはやさに関わる相反神経支配の良否が問題となります。神経中の興奮の伝わり方をとりあげますと、タバコは悪影響を及ぼすものであります。このほか柔軟性は関節の可動性であり、調整能力は、バランス、タイミング、リズム、リラクセーション、集中力とか、同時的あるいは継続的に複雑な神経機構がいかに巧みに働くかに関わるものであります。以上のように体力の機能面について、筋力、持久性、スピード、柔軟性、調整能力のそれぞれは、全く異った生理学的要因の支配をうけており、したがって、それぞれを強化するためには、全く異ったトレーニング方法によらねばならないということを知れば当然ハンドボールのゲームでは、どの機能が重要であるかを判断し、また個人的にはどの機能が劣っているかを見て、適切なトレーニングを行うことの必要性が指摘されることが理解されるでありましょう。

ハンドボールにおいて、これら機能面の個々の重要性はどうでしょうか。いずれも基礎体力としての必要性は説明するまでもないでしょうが、昨年のこの講習会では筋力を中心として、筋力とハンドボールのボールスピードとの関係について話しをしました。その際の結論を要約しますと、背筋力、上腕筋力、前腕筋力、握力などはボールスピードと密接な関係があり、いずれの筋力も強ければボールスピードがはやくなるという関係にあります。この実験はすぐれたハンドボール選手を対象としたものでありますから現状での結論は、ハンドボールの選手はボールスピードを高めるために投球動作に関係する筋肉の筋力を積極的に鍛える必要があるということがいえます。しかし、ハンドボールでは、砲丸のような重いものを投げるのではないし、また一試合四〇分から六〇分もの長い時間コートの中を敏捷に走りまわらなければならないことを考えれば、筋力がボールスピードと密接な関係があるからといって、砲丸投の選手のような筋力のかたまり的なからだづくりはかえって有害となります。そこでどこまで筋力を鍛えればよいかが問題として残されているわけです。つまり機能全般でみれば、ハンドボールでは、ボールスピードのほかにボールコントロールが重要であり、またそのコントロールの持久性をとりあげなければならず、また全身の持久性が重要でありなかなか複雑であります。さて今日はハンドボールのゲームにおける持久性の話しを進めましょう。

最初にハンドボール選手の持久性の現状についてお話しします。私達は球技選手の全身持久性をテーマにした一連の実験を行っています。球技選手の全身持久性は、何を指標としてみたらよいのか。問題はありますが現在最もよいといわれている指標は、最大酸素摂取量です。前に持久性の要因として筋肉えの酸素供給の量が持久性を決定するのであると説明しました。全身持久性では最大限どの位の酸素が心臓から全身の筋肉へ血液として送りだすことができるかの、その量が最も良い指標となるわけです。また、全身持久性は呼吸循環機能の代表とされる心臓の大きさを指標とすることもあります。また最大酸素摂取量（Max. O_2 intake）とか心臓の容積とかいうものは特別の機械を使用し面倒な操作を必要としたり、レントゲン写真を写したりしなければならず、お金や技術や時間がかかります。そこで妥当性や信頼性は少々劣るがお金のかからぬ簡単な方法としてH・S・T（ハーバード・ステップテスト）を代用することもあります。そこで、これら三つで全身持久性を調べてみました。（表1参照）

最大酸素摂取量とは、体の中に

表 1　各種球技選手及び心容積

種目	人数	身長 (cm)	体重 (kg)	最大酸素摂取量 ml/min kg	ℓ/min	心容積 ml/kg	ml
一般男学生	14	169.6	60.9	43.5	2.67	10.7	652
軟式テニス	5	166.9	59.8	49.6	2.98	—	—
バドミントン	8	167.6	60.1	50.2	3.07	13.1	792
バレーボール	10	179.4	70.7	55.7	3.94	12.5	885
サッカー	—	—	—	58.5	3.69	—	—
バスケット	—	—	—	58.9	3.85	—	—
ハンドボール	9	173.6	68.7	60.0	4.12	12.8	876
参考							
(猪飼) 長距離	沢本			69.5	4.21		
スウェーデン (Saltin and Astrand) スキークロスカントリー	5			82	by Reindell		
3000m 走	3			80		一般人	785
スピード・スケート	3			78		運動選手	1015
800〜1500m 走	5			73		自転車競走	1437
自転車	6			73			
400m 走	4			67			
家庭婦人	—	—	—	35.2	一般学生	9.8	453
軟式テニス	3	161.2	60.8	34.5	2.09	—	—
バドミントン	6	157.0	56.8	36.1	2.08	10.6	609
バレーボール	—	—	—	46.1	2.98	—	—
バスケット	—	—	—	46.2	2.82	—	—
ハンドボール	6	157.0	57.8	47.0	2.71	10.9	631
参考							
by Saltin スキークロスカントリー	5			63	3.8		
400〜800m 走	3			56	3.1		
スピード・スケート	6			54	3.1		
アーチェリー	2			40	3.3		

表 2　H. S. T. Score の平均値

ハンドボール	100〜200m	110ハードル	400・4000 ハードル	800・1500m	5000〜10000m	走巾とび	棒高とび	砲丸投
95.2±12.6	84	85	90	115	153	92	98	72

陸上は猪飼による

最大限単位時間当りどの位の量の酸素を取り入れることができるかという数値であって、男子は一分間二・五ℓ、女子は一・八ℓが普通であります。一般に体の大きい人ほど酸素の必要量が大きいので最大酸素摂取量で全身持久性を評価するためにはからだの大きさで割り、同じからだの大きさにならして比較しなければなりません。そこでまずそれぞれの被検者のからだの大きさをみますと男子一般学生は、身長一六九cm、体重六〇kgとなっています。これは東京大学の学生でして、かなり大きいという印象をうけます。それに対して軟式テニス選手（日体大選手一流）一六七cm、六〇kg、バドミントン選手（日体大）一六七・六cm六〇kg、バレーボール選手（日体大）これはさすがに大きくて一七九・四cm、七〇kgとなっております。サッカー、バスケットは残念ながらその数値がでておりません。ハンドボール選手は一七三cm六三kgとなっています。参考までにハンドボール選手の身長・体重について述べますと、一九六八年大学男子選手では一七一cm、六三kg、一九六九年ナショナルチーム候補選手が一七六・八cm、六九・七kgと次第に大型化されてきております。ここで体重一kg当りの最大酸素摂取量をみますと、一般男子学生は四三・五、軟式テニス五〇（注：この数値の読み方は、体重一kg当り一分間に五〇mlの酸素を取り入れることができ、それに相当した強度運動を長時間行うことができるというように考えてくれればよいのです。）バドミントン五〇、バレーボール五九、ハンドボール六〇というような数値となっています。つまりこれをみてもわかるように、われわれがみて「あのスポーツは持久性が必要だ」と思う競技は大きな値となっているようで、競技内容を正直に表わしているように思われます。そこでハンドボールをみると、この中では、サッカー、バスケットと並んで大体同じ値となっており、この程度の持久性を必要とする競技であると推定できるわけです。参考までにその他の競技について幾つかの数値を示しますと、長距離や、マラソンでは東京大学の猪飼教授が沢木選手について調べたところでは七〇となっております。また、測定者が違うと測定の条件が違ってくるので、その数値をこのままあてはめることは危険ですが、これを念頭において オストランド（Astrand）とサルチン（Saltin）がいろんな種目の選手について調べた数値をあげてみると大きな値を示すものとしては、スキー・クロスカントリー八二、陸上三〇〇〇m走が八〇、スピードスケートが七八、陸上八〇〇～一五〇〇m七三、自転車七三、陸上四〇〇m走六七、となっています。これらの数値と比較してみますと、球技の中ではハンドボールは数値が高い方ですが、陸上競技のマラソンとか八〇〇m走よりも低い、おおかた短距離の四〇〇m走選手がもつ持久性程度だと推定できます。次に女子の選手ではどうか。

家庭婦人三五・二、軟式テニス（日体大）三四・五（注：軟式テニス選手の値は低すぎるようです）。またバレーボール、バスケット、ハンドボール選手の数値は普通の男子並です。この中でバレーボール選手の値が高いのは被検者がヤシカチームの選手だからでしょう。

次に心臓容積についてみましょう。表は体重一kg当りの心臓の大きさを表わしたもので単位はml／kgです。心臓容積の絶対値は最大酸素摂取量の場合と同様に体の大きさによって左右されます。そこで一般には体重で割って比較します。普通の男子では体重一kg当りの心容積は一〇・七です。女子は九・八となっております。バドミントン男子の場合は高い値であり最大酸素摂取量に比例して心臓も大きくなっています。トレーニング効果として心臓にも機能増大が現われ、これが容積の増大という形となってあらわれたわけです。ドイツのラインデル（Reindell）が調べた数値では、一般人で七八五、運動選手一〇一五、自転車選手一四三七というようになっています。この表には絶対値しかでておりませんので、仮りに体重を七〇kgとしますと一般人の値は約一一くらいとなり、日本人の一般学生の一一・七とほぼ変りません。自転車選手は体重は七〇kgよりも少し大きいかもしれませんが仮りに七〇kgで割りますと二〇くらいになります。同様に運動選手は一五～一六くらいの数値となります。このようにトレーニング効果は心臓の容積の増大となってもあらわれてきます。次にハーバードステップテストスコアー（表2）について検討しましょう。一九六九年の日本ナショナルチームの候補選手についての測定値の平均は九五点です。普通人ですと七〇～七五点くらいの値ですのでハンドボール選手はこれに較べて高いということになります。ではこれを他のスポーツ特に陸上競技選手と較べると一〇〇～二〇〇m選手では八四点、一一〇mハードル選手は八五点、四〇〇m選手は九〇点、八〇〇～一五〇〇m選手は一一五点、五、〇〇〇～一〇、〇〇〇m選手は一五三点、走幅とび選手が九二点、棒高とび選手は九八点、砲丸投げ選手は七二点という数値であります。砲丸投げの選手はこれをみてもわかるように普通人の数値しかない。力はあるけれども走らせるとだめだということがわかります。したがってハンドボール選手は四〇〇m選手あるいは、走幅とびか棒高とび選手程度の持久性であるということがいえます。このようにハーバードステップテストはかなりそれぞれの人、それぞれの種目の持久性の優劣を把握することができます。全身持久性を、最大酸素摂取量、心臓容積、H.S.T. Score の三つの指標でしらべてみましたが、お互の関係は深く、最も簡便なH・S・T法によってもかなりよく評価されています。したがって、ハンドボール選手の全身持久性をこの方法で測定し評価して、トレーニングに利用して下さい。また、ハンドボール選手の全身持久性は陸上競技の四〇〇m走選手の全身持久走に相当しています。この程度の全身持久性で十分であるかどうかは今後の問題として、コートの中の断続的な短距離のダッシュが、この全身持久性を生みだしたもので、ハンドボールでは、すくなくともこの程度の全身持久性は必要であるということがいえます。

さて次に、ハンドボール競技では一試合にどの位いの動作距離があるかを男子について調べてみましたがその結果ではダッシュ、ジ

ヨック、歩き、ドリブルの総計が四二一四・五mであった。一時間の試合時間に四kmです。四kmを一時間にコンスタントスピードで歩くと大変楽であるけれども、ハンドボール競技におけるように止ったり走ったりするとエネルギーの消費量が多くなり決して楽ではありません。エネルギー消費量を試合中の動作時間から概算しますとハンドボール選手のR・M・R（運動強度）は一試合平均七〜九程度でありバスケットボールと同じ程度です。（マラソン選手は一五〜一八あるいは二〇位の数値）。要するにハンドボールは短距離を継続的に速いスピードで走り、そして休み、そしてまた速いスピードで走るというように、インターバル的な短距離走の全身持久性を必要とするスポーツだといえます。インターバル的なということはどういうことかといいますと、急走は非常に疲れやすく、疲労物質がすみやかに全身にたまる。その疲れを次の休みの間に回復させ次のダッシュの時にまた生きいきとした速いスピードで走るということです。

これに関連して大阪体育大学の加藤橘夫先生がこういうことを話されています。「自分の大学に一〇〇mを一〇秒七で走る選手がいる。しかし一〇秒七で走って少し休んで次に走らせると一〇秒七では絶対に走れない。その後は次第に記録が悪くなっていった。その時その選手に対してトレーニングとして四〇〇mの距離を走らせたところその後はコンスタントに一〇秒七をだすようになった。」とこの話はインターバル的に動くハンドボール競技のトレーニングに何かの示唆を与えているでありましょう。またこれと関連して血中乳酸の消長も参考になると思います（図1参照）図の横軸はスピードを示しています。横軸に一〇と書いてあるのは、一秒間に一〇mつまり一〇〇mを一〇秒で走るというスピードです。五と書いてあるのは一秒間に五mのスピードであるということです。縦軸は最大限何秒このスピードを持続させることができるかの数値です。つまりこのスピードで一体何秒で「へばって」この運動ができなくなるかというのが縦軸です。これでみると一〇mだとたちまちへばってしまうのに五mだと一五〇〇秒以上も運動することが可能なわけです。スピードに対応して血液の中にどのくらい乳酸が生産されるかを示したのが次の図です。（図2参照）横軸は経過時間、縦軸は血液の中にあらわれている乳酸の量です。単位のmg％は血液一〇〇ccの中に何mgの乳酸があるかということを意味しています。横軸は一〇分、二〇分、三〇分という時間経過です。また四〇〇、六〇〇、八〇〇、九〇〇、一〇〇〇と書いてあります。これは仕事量です。この血液中の乳酸は安静時は血液一〇〇cc中一〇〜二〇mg位の乳酸でありこれが正常値です。四〇〇という数値の仕事をした場合には三〇分たっても血液の中にほとんど乳酸は増加していません。

六〇〇になるとやや増加し、八〇〇になるとかなり増加する。九〇〇になると一層増加が大きく一〇〇〇では一〇〇mg％という非常に大きな乳酸値となっています。以上は仕事の強さを変えた場合の時間経過に伴なう乳酸の消長であります。さてある仕事量を一定にして、休み時間と仕事時間をいろいろと組合せにして、仕事を行った場合の乳酸の消長をみたのが次の図（図3参照）です。横軸は時間（分）縦軸は血液中乳酸の量です。一番上の曲線は六〇秒間働き二四〇秒間の休みをとっています。次の曲線は、三〇秒仕事をして一二〇秒休んでいます。いずれも仕事と休みの割合は、一対四です。また次の曲線も同様の割合で一〇秒仕事をして四〇秒休んでいます。したがって三〇分経過した際の全体の仕事量はいずれの場合も同じということになります。いいかえれば、同一の仕事をおこなう場合に長い時間仕事をしてその後ゆっくり休むのと、短い時間仕事をして短い時間休みそれを繰返すのとでは、後者の方が乳酸の蓄積がすくなくつまり疲れ方が少ないことがわかります。ハンドボールは速いスピードの運動が断続的におこなわれるスポーツであることから、その持久性のトレーニング法に大きな示唆を与えてくれます。

オゾーリンのスポーツマン教科書の中の、持久性のトレーニングの項目をみてみますと、先ほど加藤先生がおっしゃったことと似ていることが書かれています。つまり実際の走る距離よりも少し長い距離をややスピードをおとしてのインターバル走が持久性を伸ばすのによいのであるといいます。ハンドボール競技での全身持久性は、こうしたトレーニングによって培われるといってよいと考えております。

図 1

図 2

図 3

近森選手・一宮選手の欧州球信

まず、今秋来日するスウェーデンチームの近況について見ましょう。

今年になりまして、私どもの知り得た範囲では、二度の国際試合を行なっています。どちらもスウェーデン国内での試合ですので、その点を含んで、見ていただく必要もあろうかとも思いますが、西ドイツと引き分け、ルーマニアには勝利をおさめています。

スウェーデン　14分14　西ドイツ

スウェーデン　16（6−4、10−5）9　ルーマニア

西ドイツとの国際試合はスウェーデンからのテレビ中継がドイツ国内で行なわれ、観戦する機会を得ましたが、若手中心のチームに編成替えした後、前回のフランスの世界選手権をうまくのりきり、順調に成長しているようです。村田監督の言われるように、ミュンヘンの金メダルトップ候補に育ってきています。この若い伸びざかりのチームが現世界チャンピオンのルーマニアを破ったのですか、自信を増々つけていることでしょう。

今秋行なわれる日本での試合は日本チームにとっては、オリンピックの重要な試合と言える大事な試合になりましょう。フランスの世界選手権当時よりも、強さ、巧さを増し、恐るべき手強い相手に成長しています。

スウェーデンチームの特色は、遅攻を主とし、自己のボールは確実に得点していることです。この点はシュート数の割に点のとれない日本チームは大いに見習うべきでしょう。

来日前にハンブルグで合宿をしてから、日本入りをするとのことですから、過去の来日チームがともすれば、夢の東洋旅行と称して物見遊山的であっただけに、本物と言えそうです。

スウェーデンは当初3月中旬に予定されているデンマークの4ケ国大会に参加する噂があり、絶好の資料が得られると二人で話していたのですが、残念です。

この四ケ国大会には、私どものトレーナーにたのんで、二人で観戦することにしています。これはユーゴ、チェコ、西ドイツ、デンマークが参加します。今シーズン最後の試合でもありますし、二人で写真とデータをとり、次回にお頼りします。

現在、日本の最大関心事であるオリンピックアジア予選のイスラエルについて報告を入れておきましょう。

イスラエルチームは新年に渡独し、南部トーナメントに参加しています。これに関して、ドイツのハンドボール週刊誌は次のように伝えています。「日本とのオリンピック予選における準備のため、イスラエルチームはノルドランドイゼでフライブルグチーム・ストラスブールチーム（フランス）と新年の試合を行なった。（イスラエルには体育館がなく、屋外での試合ばかりであるため）その強さはドイツの地方リーグのレベルであり、日本との試合で勝ち、ミュンヘンに来ることは大変に難しいだろう」

この二試合はイスラエルが10−6、13−9とようやく勝ったものの、結果が示すようにイスラエルの得点力の低さがお判りでしょう

地方リーグのレベルは、ブンデスリーガのレベルとは比較できないぐらい低いものです。もっともブンデスリーガのチームが強すぎるということもありましょうか、

とにかく、イスラエルもオリンピックに対しての準備をしていることがお判りいただけましょう。

オリンピックの前哨戦という意味で、各国とも偵察活動に余念がないようです。特にこれから予選を行なう国々にとっては、その国のハンドボールの生命を決するほど強烈なものがあります。

先日、オランダでフランス、オーストリア、フィンランドの国際試合がありましたが、その時に各国が偵察用に準備した器具はテレビカメラ、ハンドカメラ等々相当に大規模なもので、特にフランスは熱心だったようです。

このような状態を見るについても、オリンピックはすでに相当前から始っているのだとの感を強くいたします。

私にも、ぜひこのような道具があれば、日本チームの為に役立つことができるのだがと思うと歯ぎしりしたくなります。

さて、ヨーロッパカップもいよいよ大詰を迎えて、準決勝が行なわれていますが、今年のヨーロッパカップまた政治的な問題がおきています。

といいますのは、ポルトガルが現在、アフリカで問題を起しているため、そこのリスボン・スポーツクラブとの対戦をソ連とチェコが拒否し、リスボン・スポーツクラブは通常ではとてもあがれないベストフォア入りを果してしまいました。

このようなことがしばしば起ることはスポーツをする人間にとって悲しいことはありません。

なお、ヨーロッパカップは現在準決勝ラウンドに入っており、ステアウア・ブカレスト（ルーマニ

ア）――パルチザン・ブジエロバール（ユーゴ）とリスボン・スポーツクラブ（ポルトガル）――ＶｆＬ・グンメルスバッハ（西ドイツ）が対戦することになっています。ＶｆＬ・グンメルスバッハの決勝進出は誰が見ても確実でしょう。リスボンとの間ではよほどのことがない限り、グンメルスバッハが破れることはありません。

もう一方の試合では、ステアウア・ブカレストがどうした訳か、ブカレストでの第一戦にブジエロバールに14―19で破れ、決勝進出は絶望的になりましたが、その後驚くべき追いこみを見せ、決勝はＶｆＬ・グンメルスバッハとの間で争われることになりました。

ところで、私のチームは1月20日ソ連ナショナルチームと対戦し14―14で引き分けました。

私にとっては三度目の対戦でしたが、昨年の世界選手権当時と比べると、ソロムコ等が抜け、若いチームになっただけに迫力に欠け弱さが目立つようです。昨年の世界選手権の得点王マキシモフ、クリモフは健在ですが、オリンピックで上位を狙うには、相当苦しいのではないでしょうか。

私どもは3月にステアウア・ブカレストと二度、東ドイツの昨年度のチャンピオンチームＳＣ・マグデブルグ、スウェーデンの昨年度のチャンピオンチーム、ヘラス・ストックホルムと対戦することになっています。

3月中旬には、ユーゴナショナルチームと対戦することになり、今シーズン最終期になり、大変な忙しさになってきました。

この絶好の勉強の機会を逃さず研究したく思って居ります。

では、今回はこの辺で。次回には、４ケ国国際試合、ヨーロッパカップの成績等をお知らせしましょう。ではみなさんお元気で。

ギリシャでの　オリンピックアカデミー

第11回国際オリンピックアカデミーが次のように行なわれます。

会期　71年7月16日～8月2日
場所　ギリシア・オリンピア
人員　8名以内
資格　体協加盟競技団体、都道府県体協から推薦された者
推薦団体の活動に永く寄与できるコーチ・トレーナーあるいは職員
英・仏・ギリシア語のいずれかで日常会話ができ、テキストの読解力に自信ある者
原則として35才未満
旅費　往復航空旅費自弁
決定　ＪＯＣが書類選考する。
申込方法　5月30日までにＪＯＣあて申しこみのこと
問い合せ先、体協内日本オリンピック委員会

このオリンピックアカデミーは1961年に第1回の集いをもち今年で11回を迎えます。日本からも毎年数名が参加して、世界の若人と寝食をともにし、共に勉強し意見交換をしています。

このアカデミーはオリンピック運動を広く世界中に広めるために次代の若人の再教育機関として、ＩＯＣの指導の下にギリシャオリンピック委員会が主催しています

種々の講習内容もさることながら、スクーリングのあるオリンピア、アテネ、デルフィ、イストミアなどの遺跡を訪れることも魅力の大きな一つです。

例年25ケ国から、約一三〇名の受講者が参加しています。

毎年テーマに基いた講議や討論が多くもたれています。

本年は「オリンピック運動および一般運動競技に対する期待」がテーマとして取り上げられています。

本年のプログラムは大要左記の通り。

7月16日アテネ着、17日アテネ観光、レセプション、18日コリントパトラ径由オリンピアへ、7月17日～31日オリンピア滞在、スクーリング、8月1日デルフイ径由アテネへ、8月2日アテネ発。

スクーリングは下記の内容
オリンピック運動の哲理
オリンピック運動の観念
国際オリンピック委員会
オリンピック大会の規則、規定
オリンピック大会のプログラム
古代オリンピックはなぜ衰徴したか
スポーツに関する立法
スポーツに関する将来の見とおし技術的発展
スポーツ医学の実験と見とおし

昨年のアカデミー

世界選手権の日本・ルーマニアの記録の分析

村田　弘

1、ミスの分析

対戦相手が違っているので、対等な比較はできないが、両チームともミスの3分の2がパスミス、キャッチミスである。日本チームはチェコ、ユーゴ戦は少なく、特にユーゴ戦は5で試合内容が充実していた。それで引き分けできたといえるし又ミスが少なかっただけにシュートミスがなかったら、勝っていたといえる。米国戦の20のミスはユーゴと引分けしたあとベスト8に入るためには20数点差をあけねばならなかったので、得点を意識し攻撃が雑になりミスを繰返した。米国が弱かったのでミスが多くても勝てたといえる。ルーマニアも、実力差でフランス・スイスに楽勝できる相手だが甘くみて、気のゆるみからミスを重ねた。気負い過ぎたり、気分をゆるめたりした場合以外にミスが生じる。やはりミスも精神力が大きく影響するといえる。

ミスの分析

	合計	小計	パスミス	キャッチミス	小計	オーバーステップ	ドリブルミス	ラインクロス	相手に対する反則（チャージなど）	ストーリング	その他の反則
日本チーム											
対チェコ	8	5	4	1	3	2	0	1	0	0	0
対ユーゴ	5	4	2	2	1	0	0	0	1	0	0
対米国	20	14	8	6	6	2	2	1	1	0	0
計	33	23	14	9	10	4	2	2	2	0	0
ルーマニア											
対フランス	14	9	6	3	5	2	0	2	1	0	0
対スイス	7	6	1	5	1	1	0	0	0	0	0
対西ドイツ	13	6	6	0	7	1	0	2	1	1	2
計	34	21	13	8	13	4	0	4	2	1	2

2、攻撃ミスの分析

速攻ミス、遅攻ミスの分析

日本の速攻ミスはパスとキャッチミスが大半である。ルーマニアは6試合でキャッチミスが0であった。速攻のパスミス、キャッチミスは得点に直接影響するから絶体にミスは許せないのである。遅攻ミスは日本もルーマニアもたいした変りはなく、ここでもパス、キャッチミスが目立つ、攻撃の成攻率を高めるためにはミスを少なくすることはいう迄もない。

速攻のミスの分析

	合計	小計	パスミス	キャッチミス	小計	オーバーステップ	ドリブルミス	相手に対する反則	ストーリング	その他の反則
日本チーム										
対チェコ	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0
対ユーゴ	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0
対米国	7	5	2	3	2	1	1	0	0	0
計	11	9	4	5	2	1	1	0	0	0
ルーマニア										
対フランス	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0
対スイス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
対西ドイツ	3	1	1	0	2	1	0	0	0	1
計	6	4	4	0	2	1	0	0	0	1

遅攻のミスの分析

	合計	小計	パスミス	キャッチミス	小計	オーバーステップ	ドリブルミス	ラインクロス	相手に対する反則	ストーリング	その他の反則
日本チーム											
対チェコ	6	3	3	0	3	2	0	1	0	0	0
対ユーゴ	3	2	1	1	1	0	0	0	1	0	0
対米国	13	9	6	3	4	1	1	1	1	0	0
計	22	14	10	4	8	3	1	2	2	0	0
ルーマニア											
対フランス	11	6	3	3	5	2	0	2	1	0	0
対スイス	7	6	1	5	1	1	0	0	0	0	0
対西ドイツ	10	5	5	0	5	0	0	2	1	1	1
計	28	17	9	8	11	3	0	4	2	1	1

3、防御の分析

防御の平均時間が日本が28秒に対し、ルーマニアが40秒（ルーマニアは決勝戦は57秒であった）である。防御時間が少ないのは防御が甘いため相手の攻撃が早くシュートに結びつくのであって、防御の弱さ、悪さを意味する。ユーゴ戦が35秒とよい防御であった。防御のはげしさのない限り、防御時間は短かい。日本は攻撃時間も短かく不成功で、防御時間も短かいとなると、行ったり来たりの回数が多く、体力的に消耗し、へばりが早くやってくる。防御時間を長くなるよう常に防御に於て個人個人が動いていること、又ロングシュータ－に対してブロックポストシュータ－に対して、ブロックを強くしなければならない。正面カットは日本の11に対しルーマニアが24と体格の差もあるがブロックが問題である。日本が相手に許した得点51点の内39点がブロックの悪さを暴露したといえる。防御は全体でするもので、体力、スピードを個人のトレーニングに於て養わねばならない。相手に与えたフ

防御の分析

	防御の平均時間	相手の得点					速攻	正面カット	側面カット	相手のボールミス	与えたフリースロー	退場		
		7mスロー	直接フリースロー	近い距離		中・長距離								
				スタンディング	下から横から｛倒れ込み							2分	5分	全部
日本チーム														
対チェコ	26	2	0	3	4	10	8	6	0	8	10	0	0	0
対ユーゴ	35	5	0	0	7	5	3	3	0	10	18	0	0	0
対米国	24	2	0	0	8	5	4	2	0	17	22	0	0	0
計	28	9	0	3	19	20	15	11	0	35	50	0	0	0
ルーマニア														
対フランス	40	0	0	0	5	4	8	9	0	5	40	1	0	0
対スイス	47	2	0	1	2	2	4	10	0	9	23	1	0	0
対西ドイツ	33	4	0	1	3	7	3	5	0	8	18	3	0	0
計	40	6	0	2	10	13	15	24	0	22	81	5	0	0

リースローが日本の50に対しルーマニアの81である。以前から日本でも反則数の多いチームがよく勝つといわれているが、これはそれだけ防御で動くから、強さ、スピードがあるから当然反則がおこってくるといえる。故意の反則はやるべきでないが反則を恐れて弱くなっては勝てないのである日本もよりはげしい防御が望まれる。

4、シュートの分析

シュート率は日本の0・3に対しルーマニアの0・43である。シュートの確率がよい程勝利は確実である。両国とも7Mスローはよく決めている。大事な試合には一本たりともはずしてはいけない日本は45°より中央のシュートの確率が悪い。これも相手のはげしい防御にもよるが、無駄なシュートも少し多いと言える。シュートが勝敗を決するものだから、ゴールに執念を燃やし、気力を充実してやるべきだ。シュートも精神力が大きな決め手となっている。サイドシュートは（A・E）日本の9本（4点）ルーマニア3本（1点）と日本が秀れている。今後サイドを生かす必要があるといえる。

A E B C(ゴール中) D

P 6mM、6~9m、L・9m以上
シュートの分析（左側は得点 右側シュート数）

	A	B	C	D	E	計	率
日本チーム							
P	2—4	3—16	4—9	7—19	2—5	20— 53	0.38
M	0—0	8—28	3—30	7—30	0—0	18— 88	0.20
L	0—0	1—2	1—3	0—0	0—0	2— 5	0.40
計	2—4	12—46	8—42	14—49	2—5	40—146	0.27
7m						7— 9	0.78
合計						47—155	0.30
ルーマニア							
P	1—2	5—10	5—6	7—17	0—1	18— 36	0.50
M	0—0	7—21	9—27	3—15	0—0	19— 63	0.30
L	0—0	1—2	1—1	0—2	0—0	2— 5	0.40
計	1—2	13—33	15—34	10—34	0—1	39—104	0.38
7m						9— 9	1.00
合計						48—113	0.43

5、攻撃の分析

日本チームは速攻を武器として得点を与げねばならないのに、相手G・Kの好守もあったとはいえ速攻の段階でミスが多くノーマークシュートをはずし39回の内14回の成功で0・36とあまりかんばしくない。特に右45°より16回攻めて3回の成功は非常に悪い。両サイドから3回もシュートしているが、速攻は何といっても成功率の高い左45°から中央に攻めるべきである。ルーマニアは6ゲームで6割であった。又両サイドよりのシュートは一回もない。日本チームは速攻を特徴に持つチームとして100％近い成功率を与げる迄やらねばならない。

セットオフェンスも記録から見てまだまだ成功率を高めなければいけない。得点の割にシュート数が多すぎる。得点できるからシュートするというぐあいに丁寧さが必要である。相手の秀れた体格防御のはげしさもあろうが、フリースロー附近からの成功率が0・17と非常に悪い。日本人はサイドのシュート力が良いので、相手のいけないサイドポイントをあげられるように、サイドのセットオフェンスを研究することが大切である。

攻撃の分析、日本

	A	B	C	D	E	計	率
イ 速攻							
P	1—1	2—6	2—3	2—7	1—2	8— 19	0.42
M	0—0	5—9	0—1	1—9	0—0	6— 16	0.32
L	0—0	0—1	0—0	0—0	0—0	0— 1	0.00
計	1—1	7—16	2—4	3—16	1—2	14— 39	0.36
7m						2— 2	1.00
合計						16— 41	0.39
ロ セットオフェンス							
P	1—3	3—10	2—6	5—12	1—3	12— 34	0.35
M	0—0	3—19	3—29	6—21	0—0	12— 69	0.17
L	0—0	1—1	1—3	0—0	0—0	2— 4	0.50
計	1—3	7—30	6—38	11—33	1—3	26—107	0.24
7m						5— 7	0.71
合計						31—114	0.27

攻撃の分析、ルーマニア(6試合)

	A	B	C	D	E	計	率
イ 速攻							
P	0—0	3—7	5—5	4—6	0—0	12— 18	0.67
M	0—0	5—6	1—5	0—0	0—0	6— 11	0.55
L	0—0	0—0	0—0	0—1	0—0	0— 1	0.00
計	0—0	8—13	6—10	4—7	0—0	18— 30	0.60
7m						3— 3	1.00
合計						21— 33	0.64
ロ セットオフェンス							
N	1—4	9—17	4—10	10—28	1—4	25— 63	0.38
M	0—0	10—37	11—38	13—35	0—0	34—110	0.31
L	0—0	1—3	1—5	1—8	0—0	3— 16	0.20
計	1—4	20—57	16—53	24—71	1—4	62—189	0.33
7m						11— 13	0.85
合計						73—202	0.36

6、攻撃時間の分析

相手チームの防御が強力な程、攻撃時間は長くかかる。ルーマニアが決勝戦は57秒であった。日本が米国戦27秒、ルーマニアがスイス戦29秒と悪いゲーム程攻撃時間が短かい。日本が30秒以下の攻撃で成功率が実に0・23、不成功が0・77と非常に悪い。30秒から1分の間は成功率が0・4とよくなっている。セットオフェンスは慎重に攻めチャンスを伺いながらボールを廻していると相手はいらだち防御ミスを始めるのでそこをつくべきである。

攻撃時間の分析（日本チーム）

時間		平均時間	攻撃数	成功数	失敗数
30秒以下	対チェコ	40	20	1	19
	対ユーゴ	40	13	5	8
	対米国	27	33	9	24
30〜60秒	対チェコ		12	3	9
	対ユーゴ		15	7	8
	対米国		9	4	5
60〜120秒	対チェコ		9	2	7
	対ユーゴ		3	0	3
	対米国		1	0	1

攻撃時間の分析（ルーマニア）

時間		平均時間	攻撃数	成功数	失敗数
30秒以下	対フランス	39	19	5	14
	対スイス	29	21	8	13
	対西ドイツ	46	16	5	11
30〜60秒	対フランス		11	3	8
	対スイス		6	2	4
	対西ドイツ		13	5	8
60〜120秒	対フランス		5	2	3
	対スイス		2	1	1
	対西ドイツ		8	2	6

むすび

記録は結果であっていろんな面で教えられる事が多い記録にもとずいて練習計画を立案し試合に際して作戦計画が決ったら相手のプレーに関する細かい記録を活用していくことが大切である。

日本ハンドボール協会

☆旅費規程　☆登録規程　☆懲罰規程

☆公認審判員規程　☆職員就業規則

日本ハンドボール協会には協会規約のほか、その運営を正常かつ円滑にするためいくつかの特別規程がある。

いずれ「日本ハンドボール協会規程集」が刊行されるであろうが、本誌では関係者の認識を新たにする目的でここに各規程（アマ規程を除く）の全文を特集した。

日本ハンドボール協会　旅費規程

（適用範囲）

第1条　日本ハンドボール協会が旅費を支給する旅行についてはこの規程の定めるところによる

（旅行承認権者）

第2条　旅費を支給する旅行を承認できる者は次のとおりとする

1　外国旅行　常務理事会

2　国内旅行

イ　会長、副会長、監事、評議員――理事長

ロ　理事長、常務理事、理事――旅行の目的とする業務の担当常務理事

ハ　職員――理事長

ニ　役員以外、職員以外の者――旅行の目的とする業務の担当常務理事

（旅費支給承認簿）

第3条　旅費の支給の承認は旅費支給承認簿に旅行者、旅行日、旅行目的地、旅行地及び支給旅費額を記入して、旅行承認権者および会計担当常務理事の押印により行う。

（旅費の計算）

第4条　1　旅費の計算は通常の経路および方法のうち、もっとも経済的な経路および方法により旅行した場合の旅費により計算するものとする。

2　国内旅行については国鉄普通運賃に急行料を加算し支給する。ただし第5条に該当する場合はこの限りではない。

3　宿泊費は一泊二千円以内とする

4　日当は一日五百円以内とする

5　旅費の計算上の旅行日数は旅行の目的とする業務のために実際に必要とした日数による。

第5条　日本協会の主催する全国大会に派遣される大会会長、大会委員長、大会審判員（審判長副審判長を含む）の旅費は国鉄運賃にグリーンA料金、及び急行料金を加算して支給する。

（外国旅行）

第6条　外国旅行については航空機エコノミークラス運賃および宿泊日当20USドルにより計算する。

沖縄への旅行については常務理事会でその都度協議する。

沖縄協会役員の旅費計算は第4条各項及び第5条を適用する

（雑則）

第7条　1　日本ハンドボール協会以外の者から同一旅行目的で旅費が支結される場合は本協会の旅費は支給しない。

2　第4条に示された旅費計算に基いても、なお、協会財政上支給が難しい場合は常務理事会の承認を得なければならない。

（協定事項・昭45・2・1）

1　国民体育大会、全国高校総合体育大会に関する旅費の計算は第4条各項および第5条を適用せずそれぞれの大会規程に基くものとする。

2　協会職員を日本協会主催の全国大会および国民体育大会に派遣する場合の旅費計算は原則として第5条を適用する。

日本ハンドボール協会　登録規程

―（附・国体参加協定）―

（目的）

第1条　登録は所属都道府県ハンドボール協会を経て日本ハンドボール協会へ登録することによりアマチュア資格を得ることを目的とする。

（登録チームの種類）

第2条　登録チームは左記の種類とする。

イ　一般の部（男・女）

ロ　学生の部（男・女）

ハ　高校の部（男・女）

（チーム登録の人員）

第3条　チーム登録は登録の際少なくとも7名以上の個人登録を必要とする。但し、国体のため

の高校（男女）の全県又は混合編成チームはこの限りではない

（個人の登録）

第4条　一般の部（男女）の個人登録はチーム所在地、現住所、勤務地、通学先などの区別なく同一者が3チームまで重複登録することができる。

（チームの登録）

第5条　チームの登録期限は原則として毎年5月末日とし、それ以後の登録は認めない。ただし新設チームはこの限りではない

（新設チーム）

第6条　本規程では新設チームを認める。新設チームとは前年度に登録されていないチームで、かつ本年度における登録メンバーはすでに他のチームに登録されている者が3名以内であることを条件とする。（注・3名まではよい）

（個人の追加登録）

第7条　個人の追加登録は認められる。ただし追加登録金を添え遅くとも出場しようとする競技会の申しこみ〆切期日までに手続きを完了した場合に限る。

なお、学生、高校生がその所属する大学、高校チームに追加登録する場合は追加登録金を必要としない。

（登録金）

第8条　チーム並びに個人の登録金及び一般の部（男女）の追加登録金については別に定める

（大会出場資格）

第9条　登録チームは日本ハンドボール協会、各都道府県ハンドボール協会並びに全日本学生ハンドボール連盟、全国高体連ハンドボール部、全日本実業団ハンドボール連盟（全自衛隊ハンドボール連盟を含む）、全日本教職員ハンドボール連盟の主催または主管による競技会の出場資格を有するものとみなす。

未登録チームは右記の競技会へ出場することはできない。ただし各都道府県ハンドボール協会の主催する競技会についてはその協会の判断にまかせる場合もある。その場合はあらかじめ日本協会の了解を得なければならない。

（罰則）

第10条　未登録のまま公式試合に出場した場合またはアマチュア精神に反する行為があった場合は懲罰委員会にはかり罰則を課するものとする。

附・国民体育大会ハンドボール競技への参加協定

日本体育協会などの定める大会総則・参加資格による規定のほか日本ハンドボール協会は左記の特別規程を定める

1　一般男子の部に学生の出場は認めない。学生とは学連登録者を指すのではなく、大学生という「身分」を有する総ての者を指す。

2　一般女子の部へ出場するチームには一チーム2名までの学生の出場を認める。学連登録の有無にかかわらず2名である。

3　前年度地域予選出場者とは「県予選も含めて」と解釈する

4　高校男女の全県編成（選・抜混成）による出場チームはチーム名が所定の期日（毎年5月末日）までに日本協会へ登録されていなければならない。

日本ハンドボール協会
懲罰規規

【懲罰委員会】

懲罰委員会は理事長直接の諮問機関であり、ハンドボール関係者の日本ハンドボール協会アマチュア規定の違反、その他違反行為ならびに提訴された諸問題に対して調査・検討し、理事会提出の原案を作成する。

【懲罰規程】

第1条　ハンドボールに係る各種の懲罰に関しては本規程による

（アマチュア規程違反）

第2条　アマチュア規程に違反した行為については次のように定める。違反した個人および団体はアマチュアの権利を剥脱する

ただし未知の違反または故意でない違反の場合には戒告。始末書、一定期間謹慎などを適用する。一定期間謹慎後、その状況に応じて復帰を認めることができる。

（組織に対する違反）

第3条　組織に対する違反行為は次のように定める。組織（下部組織を含む）において脱退、除名、その他違反行為による離奪の場合は本協会組職内のいかなる組織からも除外される。離脱者がその組織に復帰を認められた場合はその限りではない。

（登録違反）

第4条　登録違反に対しては次のように定める。

登録違反のあった場合は、その違反者ならびにその所属する団体は責任を負うものとする。

（大会運営上の違反）

第5条　1　全日本総合選手権大会にいったん申しこみ、抽せん後の棄権は認めない。棄権したチームはその日から向う1年間日本ハンドボール協会主催または共催の公式試合に出場できない。

2　前項に該当したチームの推せん母体の責任者（ブロック理事、学連など加盟団体の直接責任者、各都道府県責任者など）については別に責任を問う。

3　日本ハンドボール協会が主催、他に共催者のある全国大会

にいったん申しこみ、抽せん後の棄権は原則として認めない。

その場合は本条第1、第2項を適用するが、共催者にいっさいの判断をまかすこともある。

4　日本ハンドボール協会の主催または共催する全国大会の同一大会における（予選を含む）二重登録者または二重出場者はいかなる場合もプレイヤーとしてその時から向う1年間公式試合の出場はできない。その際チーム責任者の責任を問う

（審判員に関する違反）

第6条　1　審判員が言動に不謹慎な行動があった場合はその資格を剝奪する。

2　審判員に対し個人または団体がスポーツマンシップに反する行為をなした場合は向う1年間すべての公式試合に出場はできない。

（その他）

第7条　その他提訴、検討、調査などによって適時、懲罰を適用することができる。

○本規程は昭和39年6月1日より適用する。

○昭和44年2月15日一部改訂

日本ハンドボール協会
公認審判員規程

第1項　日本ハンドボール協会の公認審判員は審判技術、経験年数によってA・B・C・Dの4つの級に分ける

第2項　公認審判員の資格はD級から与えられる

第3項　D級を申請するには、ハンドボール競技公認審判員申請書（様式）に審査料および認可料をそえて、公認審判審査委員会あてに申請する。審査料および認可料は別に定める。

第4項　認可後に「公認審判員手帖」、マーク、その他が与えられることによって資格を得、公認審判員として登録される。

第5項　各級は次の大会の試合を管理することができる

A級　国際試合、全国的大会
B級　ブロック大会
C級　各都道府県大会
D級　なし

第6項　各級は次の大会の試合の審判をすることができる

A級　国際試合を含むすべての試合
B級　国際試合以外のすべての試合
C級　ブロック大会、都道府県大会の試合
D級　都道府県大会の試合

第7項　上級を申請する場合には各級の段階を満2年以上経ていなければならない。審査に関しては別に定める。

第8項　公認審判員は日本ハンドボール協会または都道府県協会（日本ハンドボール協会認可）の主催する審判講習会に出席しなければならない。後者の場合はその主催者は開催期日内容、出席者名簿をその講習会終了後15日以内に日本ハンドボール協会宛提出しなければならない。

第9項　公認審判員の審査は別に定める。

第10項　公認審判員手帖は、2年毎指定された期日までに本協会あて提出しなければならない。

第11項　次の項に該当する場合、公認審判員としての資格を審査される。

1　満2年以上審判から遠ざかった場合。ただしA級を取得した者は別に審査する。

2　日本ハンドボール協会アマチュア規程に反する行為のあった場合。

3　公認審判員としてふさわしくない言動のあった場合

4　審判講習会に無届で欠席した場合

5　日本ハンドボール協会に住所変更の連絡がなかった場合

6　指定の期日までに公認審判員手帖を提出しなかった場合

▽編集部・注　現行の公認審判員審査に関する規程の詳細は本誌第72号（45年2月号）参照。

日本ハンドボール協会
職員就業規則

（職員の定義）

第1条　この規則において「職員」とは日本ハンドボール協会に常時勤務する者であって、役員および2ケ月以内の期間を定めて雇用される者以外の者をいう

（任免および指示監督）

第2条　1　職員の任用および免職は常務理事会が行う

2　職員が行う業務の指示および監督は理事長が行う

（勤務時間および休日）

第3条　1　勤務時間は午前10時から午後5時までとする。ただしあらかじめ理事長に届出た1週間のうちの1日の勤務時間は午前10時から1時までとする。

2　日曜日、祝日および12月28日から1月3日までは休日とする。

3　第1項の勤務時間を越えて勤務した場合および休日に勤務した場合は1時間につき200円の超過勤務手当が次の給料日に支給される。ただし超過勤勝手当の支給を受けようとする時は同席した役員の確認印のある超過勤務報告票を会計担当常務理事に提出しなければならない。

4　休日に出勤した場合、一ケ月以内に「代休」をとることができる。

（月給およびボーナス）

第4条　1　月給およびボーナスの支給額は常務理事会が定める

2　月給は毎月15日、ボーナスは6月および12月の15日を支給日とし、その日が休日にあたる時はその前日とする

附則　本規則は昭和39年4月1日より適用する

○昭和44年11月30日一部改訂

「日本ハンドボール協会アマチュア規程」は本誌第84号の特集を参照

この規定集は総務企画部の立案で、従来成文化されながら、はっきりとしていなかった日本協会の諸規程を規程集として刊行するつもりであったのが、主として財政上の理由で発行が困難になったところから、雑誌に掲載し、日本協会は規約だけでなく、種々の規定も制定されていることを広くハンドボールファンの方に知っていただこうということになり、このような形で掲載することになったのです。

これら諸規定は年々変更されることもありますので、また機会を見て、掲載することを考えています。（編集部）

プラスチックの総合メーカー
メッキは金属だけでは……
……ありません！
精密金型設計・製作
マイクロプラスチック成型
プラスチックメッキ
株式会社 宗形製作所
本社 大阪府高槻市辻子241番地 TEL 高槻(0726)75−5551
東北本社 福島県福島市清水町字中谷地48番地 TEL 福島(02452)3−2812・2911
宗形工業化学株式会社 大阪府高槻市辻子252番地の1 TEL 高槻(0726)75−5767～8
京都金型製作株式会社 京都市南区上鳥羽花名町19番地 TEL 京都(075)68−9701

昭和45年度日本協会
常務理事会議事録
（抜すい）

▼臨時常務理事会（45年4月6日体協）

一、昭和46年度以降全日本総合選手権の実施方法を全面的に改正、ナショナル・チャンピオンシップとしての性格を強める。

一、現行の全日本選抜選手権の開催日を46年度から上半期（4月〜10月）に移す。

一、今年度も国体のチーム編成は11名とする

一、来年度の国際試合はスウェーデン招待を第1案とし、ソビエトを加えての3国対抗案は白紙にもどす。

一、選手強化対策部をオリンピック対策部と技術指導部に分けオリンピック対策部長は村田弘氏を推せん。

一、オリンピック第一次候補選手18名を推せん

一、海外駐在代表に河内鋭雄氏を推せん

▼月例常務理事会（4月25日・体協）

一、昭和44年度決算中間報告

一、オリンピック対策部は男子の頂点強化のみに専念、他の一切の競技力向上事業は技術指導部が担当する

一、IHF総会出席者を渡辺副会長、河内海外駐在代表に決定

一、昭和45年度全日本チーム監督に村田弘氏。同コーチに竹野奉昭氏を推せん

▼月例常務理事会（5月23日・体協）

一、IHFコーチシンポジューム（8月、トスックフォルム）に竹野奉昭全日本男子コーチを派遣。

一、技術指導部長に勝繁夫氏を推せん

一、韓国学生・成均館大の来日を承認（主管は全日本学連）

一、国際部の復活を決定、部長に久田暁氏を推せん。この人事により会長推せん理事（14名）が揃う

▼月例常務理事会（6月26日・体協）

一、本年度全日本選抜の実施案検討

一、加盟団体の全日本選手権の組合せ決定は、当該団体で自主的に行ってよい。その場合、日本協会役員の立ち合いを必要とする

一、台湾から来日の希望が寄せられている「台中県小学校教師選抜」を全日本教職員選手権時に招く

▼月例常務理事会（7月18日・体協）

一、第1回全国中学校指導者講習会の実施案検討

一、全日本実連の全日本実業団選手権における二部方式（男子）実施を承認

▼月例常務理事会（9月26日・体協）

一、オリンピック第一次候補選手のうち近森、江名の辞退、竹野のコーチ専念、大村久（GK・日体大）の追加を各承認

一、昭和44年度決算報告

一、IHF総会報告

　オリンピックアジア予選の実施決定にともない同予選の日本開催を推進することに決定

一、第5回世界女子選手権（46年12月・オランダ）への出場を決定し候補選手選考委員9名を推せん。

一、日韓社会人交流に住友化学菊本（愛媛）を派遣

一、第4回世界学生選手権（46年4月・チェコ）には不参加

一、昭和45年度全国高校優秀選手男女各25名を承認

一、スウェーデン招待案を検討。日本協会への納入（負担）金は1試合50万円とする

一、ソビエト女子の招待を断念

一、昭和46年度以降の全日本総合は12月に室内で開く原則案を決定当分のあいだ開催地は東京、大阪、名古屋とする

一、昭和45年度修正予算を決定

▼月例常務理事会（11月21日・体協）

一、オリンピックアジア予選に関する〃日韓会談〃報告

一、日本ハンドボール協会アマチュア規程協議

一、鈴木前会長へ感謝状を贈呈する。

一、日韓社会人交流の出場チーム名「愛媛ク」を事後承認

一、46年度予算第1次査定案を協議、結論は次回に持ちこす

一、在京常務理事による「アジア連盟規約草案作成特別委」を編成する

▼月例常務理事会（12月19日・体協）

一、オリンピックアジア予選へ出場の全日本男子監督に村田弘、同コーチに竹野奉昭氏を推せん

一、オリンピック第2次候補を推せん、新たに永海正行（FP・日体大）追加

一、第5回世界女子候補25人を推せん

一、オリンピックアジア予選日本開催日程案を承認

一、韓国女子実業団・白花醸造の来日を承認（主管は全日本実連）

一、スウェーデン・ナショナルの日程第2次案を協議し、第5戦（9月12日）第6戦（15日）の調整については一地域一試合を原則とし第5戦東海地区、第6戦九州地区（全熊本）とする

一、アジア連盟規約草案を承認

一、3国会議の日程を決定

一、46年度（第23回）全日本総合選手権の開催地は東京とする

一、世界女子選手権における日本人審判員の登用を要請する

一、全国理事会議案作成

▼臨時常務理事会（12月20日・東京体育館）

一、第5回世界女子選手権へ出場全日本女子監督に山田計、同コーチに宇津野年一、井薫の三氏を推せん

一、日本スポーツ賞（読売）に日体大男子を推せん

▼月例常務理事会（46年2月14日）

一、イスラエルからの返事に対して討議を行ない、イスラエルの提案は拒否し、改めて、日本の提案を再呈示し、三国会談は延期することにした。

一、西独グンメルスバッハチームの招待を決定し、日程をほぼ決定した。

（注）8月、10月、46年1月の月例常務理事会は休会

> 本誌では昨年度までは常務理事会の議事録(抜すい)を逐次掲載して来ましたが、今年度は「日本協会この1年の動き」として今回一括しました御意見をお聞かせ下さい。

各地記録

埼玉教員、大崎Bに破る

第五回埼玉県総合選手権（2月 浦和市）

▼男子準々決勝
大崎A 23—9 秩父高
大崎C 25—4 霞クラブ
埼玉教員 31—7 浦和工A
大崎B 15—12 川口工A

▽同準決勝
大崎A 24—18 大崎C
大崎B 20—19 埼玉教員

▽同決勝
大崎A 25（11—9、14—15）24 大崎B

▼女子準々決勝（＝二試合）
深谷女高A 18—1 朝霞高
深谷女高B 16—2 行田女高

▽同準決勝（＝一試合）
深谷女高A 17—10 深谷女高B

▽同決勝
大崎電気 20（7—2、13—1）3 深谷女高A

高校勢が男女とも勝つ

第10回長野県総合室内選手権

▼男子準々決勝（＝二回戦）
小諸商 22—13 上田ク
屋代高 14—7 坂城高
松門会 24—14 北農ク
北佐久農 22—9 坂城ク

▽同準決勝
小諸商 11—10 屋代高
北佐久農 13—11 松門会

▽同決勝
北佐久農 30（11—10、19—5）15 小諸商

▼女子準々決勝（＝二回戦）
小諸商 12—0 上田城南
北農ク 24—2 佐久高B
県選抜 6—5 佐久高A
小商ク 14—12 北佐久農

▽同準決勝
小諸商 17—10 北農ク
県選抜 24—4 小商ク

▽同決勝
県選抜 30（13—7、17—10）17 小諸商

高志高（女子）優勝

第5回福井県室内総合選手権（2月・羽水高）

▼男子準々決勝（＝二回戦）
福井教員 23—13 若狭クラブ
藤島高 5—4 福井商1・2年
若狭高1・2年 11—5 高志高
羽水高 22—2 丸岡高

▽同準決勝
福井教員 17—8 藤島高
羽水高 6—4 若狭高1・2年

▽同決勝
福井教員 17（11—5、6—6）11 羽水高

▼女子準々決勝（＝一回戦3試合）
福井商 5—3 羽水高
武生商 8—8 若狭高（抽せん勝ち）
高志高 7—3 藤島高

▽同準決勝
福井商 9—8 一般女子
高志高 3—2 武生商

▽同決勝
高志高 11（7—4、4—2）6 福井商

国学院栃木（女子）優勝

栃木県高校新人大会（1月）

▼女子準々決勝（＝一回戦1試合）
栃木女高 25—1 馬頭高

▽同準決勝
小山城南高 15—3 足利女高
国学院栃木高 5—4 栃木女高

▽同決勝
国学院栃木高 17（9—1、8—6）7 小山城南高

▼男子準々決勝（＝一回戦）
足利高 7—6 烏山高
足利工 18—3 石橋高
国学院栃木高 13—4 宇都宮工
足利商 17—7 馬頭高

▽同準決勝
足利工 11—5 足利高
国学院栃木高 12—5 足利商

▽同三位決定戦
足利高 14—9 足利商

▽同決勝
足利工 15（7—5、8—5）10 国学院栃木高

呉三津田(男)・山陽女勝つ

広島県高校室内選手権（1月・県立体育館）

▼男子準々決勝（＝二回戦）
呉工 14—7 修道高
広高 20—19 呉宮原高
呉三津田高 27—0 盈進高
呉高 12—11 山陽高

▽同準決勝
広高 11—7 呉工
呉三津田高 15—6 呉商

▽同決勝
呉三津田高 10（6—5、4—3）8 広高

▼女子準々決勝（三試合）
呉商 8—3 豊栄高
一女商 9—6 戸手
進徳 7—0 呉宮原

▽同準決勝
山陽女 17—1 呉商
一女商 8—1 進徳高

▽同決勝
山陽女 11（8—1、3—1）2 一女商

初芝（女）初優勝

大防府新人大会は1月23日～2月14日までの間の6日間にわたって、男子52校、女子22校の参加のもとに行なわれた。

▼男子三回戦
堺工 18—11 三国丘高
花園高 8—3 天王寺高
寝屋川高 12—6 北陽高
都島工 11—5 淀川工
茨木高 13—7 北野高
池田高 8—8 城東工（抽せん勝）
上宮高 24—6 大阪市立高
和泉工 17—8 大商

▽同準々決勝
堺工 20—9 花園高
池田高 5—3 茨木高
都島工 7—6 寝屋川高
上宮高 16—8 和泉工

▽同準決勝
堺工 7—6 都島工
上宮高 8—7 池田高

▽同決勝
堺工 26（12—7、14—10）17 上宮工
堺工は3度目の優勝

▼女子準々決勝（＝三回戦）
初芝高 7—6 枚方高
天王寺高 6—4 北淀高
鶴見商 10—3 八尾高
寝屋川高 7—1 泉北高

▽同準決勝
初芝高 5—0 天王寺高
寝屋川高 6—0 鶴見商

▽同女子決勝
初芝高 5（3—1、2—0）1 寝屋川高

宮城県協会新役員
会長 松川金七、理事長 森恭一
事務局長 勝山宏

・記・後・集・編・

これまでのハンドボール協会の歴史の中で、最重要な年の一つになろう今年。アジア予選、世界選手権と今後のハンドボール界の浮沈をかける行事がならんでいます。決ったならば、行きがかりはすてて、一致団結してほしいのです。（S・F）

合織糸・合織混紡糸

田村紡績株式会社

社長　田　村　正　衛

四日市市東茂福町10—17
TEL 四日市 6—2156（代表）
郵便番号　512

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第八十五号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可　昭和四十六年三月二十五日印刷　昭和四十六年四月一日発行
発行所　日本ハンドボール協会
渋谷区神南一ー一ー一　電話大代表(467)三一一一　振替東京五八三四八番
編集兼発行人　保坂周助
定価百五十円（年間購読11回・千二百円）